

2008 静岡大学公開セミナー報告集

通巻第5号

学んで楽しい！－大学で学ぼう－

学びの内容とその支援

静岡大学生涯学習教育研究センター

(講座企画 静岡県知的障害者就労研究会)

目次

挨拶	2
【概要編】	
講座の趣旨（徳増五郎）	4
青年・成人期の生涯発達の保障と学びの支援（渡辺明広）	6
【講義編】	
講義①「不思議感動！科学する心とは！？」（熊野善介）	9
講義②「現代ファッション事情～流行は誰が考えるの？どうやって決まるの？～」（大橋芳幸）	17
講義③「消費生活を考えてみよう」（色川卓男）	29
講義④「音楽のしくみを知ろう～うたのはじめはドレミ～」（北山敦康）	41
【資料編】	
授業後のアンケートのまとめ（大畑智里）	50
学びのパートナーとして、いっしょに受講して（渡辺明広）	52
受講者の感想（大畑智里）	56
これまでの「学ぶって楽しい！ー大学で学ぼうー」（五條由美子）	58
スタッフ名簿	62
編集後記	63

挨拶

今年度の静岡大学公開セミナーでは、科学、ファッション、消費生活、音楽の4つの分野にわたる講義が行われました。

講義内容は、受講生のみなさんの希望をもとに決めています。本研究会が、開催している就労フォーラムの本人部会で、みなさんにどんなことを学びたいか希望を聞いていますが、毎年様々な意見が出されます。今回は、地球温暖化、ファッション事情、絵手紙、音楽、エネルギー問題、医師不足問題、輸入食品、家計簿、就職に有利な資格などの意見が出されました。みなさんが社会事象に敏感で、学びの興味や関心がたいへんに幅広いことをあらためて感じています。

講師は、静岡大学教育学部の理科教育、消費生活科学、音楽教育の各教室の先生方に加え、株式会社コックスの開発部長様をお願いしました。毎回、その道の専門家やプロの方が講義をしてくださっています。ですから、その内容は、受講生はもちろん、学びのパートナーである学生のみなさんにとっても、知的好奇心を大いに満足させるものになっています。多少難解と思われる内容もありますが、どの講義にもスモールワークの時間が設けられ、学びのパートナーとの関わりの中で、主体的な学びが可能になっています。

また、昨年度に続き、今年度も県の東部地区で「学ぶって楽しい！」が開催されました。生涯学習の場がますます広がっていることを、たいへんうれしく思います。この学びを契機として、みなさんの社会参加の場がさらに広がっていくことを願っています。

毎回、御尽力いただいている静岡大学生涯学習教育研究センター、各地区の青年学級、特別支援学校の同窓会、静岡大学学校教育教員養成課程の学生、日本大学国際関係学部の学生等、多くの皆様に厚く御礼申し上げます。今後とも、よろしく御支援をお願いし、お礼の御挨拶といたします。

静岡県知的障害者就労研究会代表 池上 登

挨拶

静岡大学生涯学習教育研究センターは、本学が長年にわたって蓄積してきた知的資源を地域社会に開いていくための窓口です。1997年に設置されて以来、公開講座や公開セミナー、シンポジウムなどの大学開放事業を実施するとともに、地域の方々と連携してさまざまな事業を行ってきました。

この「学ぶって楽しい！—大学で学ぼう—」は、静岡大学の中でも特色ある取り組みです。生涯学習教育研究センターでは、公開セミナーという形で講座運営のお手伝いをしています。

一般市民の学習の場として大学を開放するだけでなく、知的障害者に生涯学習の場を提供していくことも、これからの大学にとって重要な役割だと思えます。知的障害をもつ社会人を対象にしたこの取り組みは、生涯学習という観点からも、非常に価値のあることだと考えています。さらに、「学びのパートナー」として講座運営に協力してくれた本学の学生にとっても、大きな意味があることは言うまでもありません。

健常者・障害者の垣根なく、大学が地域の中でもっと身近な存在になれるよう、これからも努力していきたいと考えています。この講座をきっかけに、大学との新しい関係が生まれ、未来に向けて育っていくことを願っています。

最後に、「学ぶって楽しい！」の開催にあたっては、実質的な企画をされた静岡県知的障害者就労研究会のみなさま、ボランティアで講座運営に尽力してくださった各特別支援学校のみなさまや学生たちの多大なるご協力をいただきました。厚く御礼申し上げます。

静岡大学生涯学習教育研究センター長（理事・副学長） 山本 義彦

講座の趣旨

徳増 五郎

はじめに

静岡県知的障害者就労研究会（以下、本研究会）は、知的障害養護学校の卒業生の就労の拡大・継続と生活支援の研究活動を行っており、就労を支えるためには、余暇の充実や生涯学習が重要であると考えている。つまり、知的障害者にとっても、学び続ける機会があることは、社会参加の機会と幅が広がり、人生をより豊かにすることができると考えているのである。具体的には、自然界の現象や社会における出来事、さらには専門分野の講義を聴くことを中心に学びを進め、深めることも可能であると思われるのだが、これまではこうした種の学習の機会が、成人の知的障害者には用意されていなかった。

しかし近年、障害のある人への学校教育以外の教育的取り組みは、「生涯学習」という枠組みではないものの、さまざまな実践が展開されるようになった。静岡県内では、2005（平成17）年から、本研究会が、静岡市及び周辺の青年学級等の人たちに呼びかけ、科学と地理、外国文化等についてのテーマの講義を聴く講演会を開催している。毎回、知的障害のある社会人が40数名、学習支援者として20数名の学生と一緒に受講し、学びことができる講座を目指している。

静岡のスタイル

静岡での講座を開催するにあたって、本研究会に実行委員会を設置した。そして、先進的な取り組みをしている講座を見学させていただいたり、文献による調査をしたりしながら、静岡ならではのものを作りたいと考え、以下の二点を大切にしていこうとした。

(1) 主体的な学びに

「こうすることが望ましい」といったことを教える授業ではなく、参加者が「こんなことを学びたい」と思う事項を題材としたい。また、体験活動のみで「面白かった。楽しかった」というような、単なる遊び感覚にならぬよう、「知的好奇心をくすぐりつつ、難しいことを分かりやすく、自分たちなりに考える場を設けた」講義を目指したいと考えた。

そこで、参加者の希望から講義内容を決めた。至極当然のことではあるが、要望に適した講師を探すことは、なかなか容易ではなかった。幸い多くの方々から「こんな先生がいらっしゃるよ。」と情報提供していただくことができ、非常にありがたかった。

それから、本講座の趣旨を理解していただいた上で様々な環境設定するために、講師の先生方と何回か打ち合わせをさせていただいた。その中で、視覚や聴覚にうったえる教材を用意することや実験等の体験活動の導入、ワークシートへの記入及び小グループによる話し合いの時間の確保といった展開が有効ではないかと考えた。受講生の学びの様子や感想、アンケートの結果から見ると、こうした環境設定が魅力ある講義につながったと思われる。

(2) ユニバーサルな学びに

講義の中で、課題解決に向けて意見交換をすることにより、お互いがお互いを理解したり、共に学ぶことができ良かったという充実感や達成感を持ったりすることは、非常に意義深い。しかし、他地域でも障害のある人と障害のない人が一緒に学ぶことができるよう努力しているが、実現している所は少ないようである。

そこで、本講座では静岡大学教育学部障害児教育講座（現在は特別支援教育講座）の学生に、学びのパートナーとして共に講義に参加し、必要最低限の支援のみしてもらおうよう依頼した（基本的には参加者本

人の自主性に任せ、参加者が困っていたり参加者に質問されたりした時のみ支援する)。

お互いが、普段接したことのない人との共同作業であったが、学生諸君が学習活動を通して参加者の意見を引き出してくれる場面が多くみられた。また、感想文から参加者のひたむきな態度が、学生には響くものがあったこともうかがうことができ、「共に学ぶ」という目的に近づくことができたと考えている。

実施要項

○第6回実施分

<講座名> 第6回 学ぶって楽しい！—大学で学ぼう—（平成20年度静岡大学公開セミナー）

<期 日> 平成20年6月15日（日）

<場 所> 静岡大学学生会館

<対 象> 静岡市と周辺の地域の知的障害をもつ社会人

<講師及び講義内容>

熊野善介先生「不思議感動！科学する心とは！？」

静岡大学教育学部教授（理科教育）

大橋芳幸先生「現代ファッション事情～流行は誰が考えるの？どうやって決まるの？～」

株式会社コックス ブランド開発部長

○第7回実施分

<講座名> 第7回 学ぶって楽しい！—大学で学ぼう—（平成20年度静岡大学公開セミナー）

<期 日> 平成20年10月19日（日）

<場 所> 静岡大学学生会館

<対 象> 静岡市と周辺の地域の知的障害をもつ社会人

<講師及び講義内容>

色川卓男先生「消費生活を考えてみよう」

静岡大学教育学部准教授（消費生活科学）

北山 敦康先生「音楽のしくみを知ろう～うたのはじめはドレミ～」

静岡大学教育学部教授（音楽教育）

知的障害のある人の生涯学習について ——各地の大学公開講座等の実施状況——

渡辺 明広

生涯学習についての理念が改正教育基本法に明確に規定され、生涯学習の機会と合理的配慮に基づく支援の保障が国連の障害者の権利条約に示された。国内外のこうした潮流を背景に、知的障害のある人たちの大学講座やオープンカレッジなどによる生涯学習が構築されつつある。

生涯学習の理念の確立

2006（平成18）年12月に改正された教育基本法の第3条には、「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことができる社会の実現が図らなければならない」とする生涯学習の理念が示された。

これまでも、知的障害のある成人への学校卒業後の教育的な取り組みについては、さまざまな実践が展開されてきた。たとえば、当事者や保護者、学校の教員が中心になって進められてきた各地の青年学級、自治体による社会教育の場である学習会やサークル、あるいは、障害者福祉施設内での学習活動等である。そこでは内容的には余暇活用のための文化、スポーツ活動の取り組みが中心であったが、今後は生涯学習という枠組みを明確にした内容の充実と、本人主体の学びの進め方が検討課題となろう。

また、2008（平成20）年5月3日に25カ国の批准を得て発効した、国連の障害者の権利条約の第24条5項では、「締約国は、障害のある人が、差別なしに、かつ、他の者と平等に高等教育一般、職業訓練、成人教育及び生涯学習の機会を与えられることを確保する。このため、締約国は、合理的配慮が障害のある人に提供されることを確保する」と規定している。「合理的配慮」とは、障害のある人が権利を行使できない環境に置かれている場合に、個々の状況に応じて、その環境を改善したり、調整することである。現時点で、わが国はこの条約の批准には至っていないが、法的な拘束力のある条約が批准されれば、わが国の取り組みの実効性を推進する点で、大きな意義をもつことになる。

大学における公開講座

こうした中で、近年、大学で知的障害のある人を対象にした公開講座やオープンカレッジの取り組みがされ、これからの生涯学習の場として期待される場所である（各地の大学公開講座等の実施状況については、「2007静岡大学公開セミナー報告集」を参照されたい）。

知的障害者のための大学公開講座などのなかで最も早くに行われたものの一つが、1995年から始まった東京学芸大学における本人講座「自分を知り社会を学ぶ」である。大学公開講座の一環として取り組まれるこの種の活動は、その後、全国的な広がりを見せた。各大学の個々の取り組みは、独自の考えをもちながらも、①知的障害者の人権（教育権）や②発達の保障、③地域社会に対する大学の貢献の3点を共通の基本理念として掲げている。東京学芸大学では、2004（平成16）年から講座のテーマを「いっしょに学び、ともに生きる」に変え、一般市民とインクルーシブな場で学びあうという新たな取り組みを行っている。2008年度で5年目を迎えたこの講座は、年間4回の講義と学びの成果を報告するシンポジウムより成る。この講座では、準備をも含む全ての取り組みを記録、分析し、①知的障害者に対する生涯発達支援と生涯学習支援とに資する学習プログラムの開発、②知的障害者と一般市民とのインクルーシブ

な学習を可能とする学習方法の開発を目指している。さらに、このような取り組みの積み重ねによって、知的障害のある彼らの高等教育の必要性が裏付けられ、広く社会に理解されていくことを目指している。この取り組みの詳細は、日本特殊教育学会でのポスター発表でなされている。

これらに関連して、日本特殊教育学会の自主シンポジウムで、松矢勝宏教授（目白大学）らが企画者になって、「知的障害者の生涯発達と生涯学習保障」をテーマに、大学における教育や生涯学習に関わる議論が重ねられている。2006（平成18）年のシンポジウムでは、各地で展開されている大学を活用した知的障害者の生涯学習の取り組みを交流するとともに、1) 障害のある当事者の学習ニーズは何か、それはどのような権利に根ざしているか、2) そこでの「学び」とはどのようなものであるのか、「学び」の効果はいかなるものか、3) この取り組みを広げ、発展させ、定着させていくためには何が必要か、という課題意識が共有されている。

また、2007年のシンポジウムでは、知的障害者と学生が共に学びあうことを目的にしたオープンカレッジ「ふれあい大学課程」を開講し、障害者や高齢者と「共に生きる地域づくり」をテーマとした試みを始めている龍谷大学短期大学部や、カナダアルバータ州における、知的障害者の大学における中等教育後の学習機会提供の実態調査をもとに、インクルーシブな学びと社会の創出につながるであろう知的障害者の生涯発達と生涯学習保障についての議論が深められている。

さらに、2008年には、「青年・成人期の生涯発達を支援する学び」のテーマで、障害のある人の青年期・成人期の学びが、彼らの生涯発達の上でどのような意味を持つのか、東京学芸大学の公開講座の報告などをもとに議論がされている。

静岡における大学公開講座

静岡県内では、2005（平成17）年10月に、知的障害養護学校（現在は特別支援学校）の卒業生の就労と生活支援の研究活動を行っている静岡県知的障害者就労研究会（県下の特別支援学校の進路指導担当教員らが会員）が静岡市及び周辺の青年学級等の人たちに呼びかけ、科学と地理、外国文化についてのテーマの講義を聴く講演会を開催した。翌年度は静岡大学が主催する公開講座となって年2回開催した。2007年度からは同大学が主催する公開セミナーとして6月と10月の年2回開催している。講師は大学教員等であり、講義内容は、地元の歴史、海外旅行の情報、宇宙の不思議、サッカーなどバラエティーである。毎回、知的障害のある社会人が40数名から50数名、学習支援者として同大学教育学部の学生20数名と一緒に受講し、学ぶことができる講座を目指している。

この講座の特徴は、①主体的な学びのために、受講者たちの希望をもとに、講座内容と講師を選定している、②受講の社会人と同世代の学生（学びのパートナー）が共に講義を聞き、スモールワーク（演習）を一緒に行うことで、ユニバーサルな学びを実現することを目指している、ことである。

静岡県知的障害者就労研究会は、2007年度からは同様の趣旨で、県東部の沼津、三島、御殿場の各市の特別支援学校を卒業した社会人に呼びかけ、講演会を開催している。社会人40数名と日本大学国際関係学部の学生20数名が学習支援者として一緒に参加している。

文献

- ・加藤博史 オープンカレッジ「ふれあい大学課程」の実践、肥後祥治 カナダアルバータ州における Inclusive Post Secondary Education (IPSE) の試み 知的障害者の生涯発達と生涯学習保障3（自主シンポジウム）日本特殊教育学会第45回大会発表論文集 2007 p.154
- ・菅野敦 大学公開講座から始まるインクルーシブな学び 青年・成人期の生涯発達を支援する学びー障害のある人の青年期・成人期の教育をどのように創造するかー（準備委員会企画シンポジウム2）

日本特殊教育学会第46回大会発表論文集 2008 p.40

- ・ 渡辺明広 知的障害のある人の生涯学習について—各地の大学公開講座等の実施状況— 2007 静岡大学公開セミナー報告集 通巻第4号 学ぶって楽しい！—大学で学ぼう— 静岡大学生涯学習教育研究センター 2008 pp.6-8

【講義①】

不思議感動！科学する心とは！？

熊野 善介

静岡大学公開セミナー 2008年6月15日
教育学部 熊野研究室

しずおかだいがくきょういっくがくぶ きょうじゆ くまの よしすけ
静岡大学教育学部 教授 熊野 善介

アシスタント しずおかだいがくきょういっくがくぶ ねん あきやま やすよ
静岡大学教育学部 4年 秋山 恭世 等

I. 科学^{かがく}ってな^なーに

科学^{かがく}する^{ころ}心^{こころ}って^{ふしぎ}どんな^{おも}ものでしょう。不思議^{ふしぎ}だな^{おも}と思^{おも}つたり、自然^{しぜん}の中^{なか}の^{へんか}変化^{かんどう}に感動^{かんどう}したりできたら、あなたはもう科学^{かがく}の入り口^{いぐち}にたどり着^ついているのです。今日は、2つの活動^{かつどう}を通して、面白^{おもしろ}いことを体験^{たいけん}しましょう。

II. 回転^{かいてん}する木^きの円柱^{えんちゆう}の秘密^{ひみつ}

ぜんな体験^{たいけん}や工作^{こうさく}なの。

回転^{かいてん}しているものをじっとみていると、反対向^{はんたいむ}きにまわっているように見えたり、色々な模様^{もよう}が見えたりしたことはありませんか。また、色^{いろ}が変わ^かって見えたりしたことはありませんか。今回^{こんかい}は、木^きの円柱^{えんちゆう}を色々な長さ^{いろいろなが}に切^きって、模様^{もよう}を付け^{つけ}回転^{かいてん}させてみるということをやってみましょう。あれ、印^{しるし}を一個^{いっこ}しか付けていないのに、木^きの円柱^{えんちゆう}の長さ^{なが}によって、見える印^{しるし}の数^{かず}が変化^{へんか}しませんか。その原因^{げんいん}を探^{さぐ}てみましょう。今回^{こんかい}は、コンピュータグラフィックスも準備^{じゆんび}しましたのでお楽しみください。また、原因^{げんいん}や理由^{りゆう}が分^わかった人^{ひと}から、今度^{こんど}はフィルムケースを2個^{こりよう}利用^{りよう}して、色々な色^{いろいろいろ}やデザインをしてアートをつくってみましょう。できたものを、友達^{ともだち}と見せ合^あいっこしてみましょう。

静岡大学公開セミナー 2008年6月15日
教育学部 熊野研究室

実験のしかたはどこ？

(準備するもの) 円柱の木 (長さが異なるもの3種)・いろいろな色の印・マジック
(やり方)

実験を始める前に、「理科ねっとわーく」での説明と講師の話聞いてください。

(あれ不思議だな) が大切、何が不思議なのかな。

やってみましょう。何が不思議なのでしょう。

いろいろな長さの木の円柱でやってみましょう。3種類。

長さを決めるとき、ある決まりがあります。

そうそう、見つけましたか。

さあ、やってみましょう。どのような関係があるでしょう。

もう一度やってみましょう。印を真上から見るのです。

木の円柱の長さが長くなるにつれて、見える印の数はどうなりましたか。

そうですね。長くなるにつれて、見える印の個数が増えていきますね。

このことから、何かいえますか。

では、コンピュータグラフィックを見てみましょう。

わかりましたか。

では、身の回りのもので同じような原理を使用しているか考えてみましょう。

もっと詳しく知るためには？：ネブラスカ大学リンカーン校のロン・ボネステター教授
の http://nerds.unl.edu/pages/mamres/pages/demos/physical/spinning_cylinder.htm

を参考にしてください。

静岡大学公開セミナー 2008年6月15日
教育学部 熊野研究室

Ⅲ. 回転する模様の不思議

「回転する模様」を円形の画用紙に貼り、中央にワッシャーを半分はめ込み、回転させるという簡単な作業で、準備完了です。しかし、「回転する模様」は白黒であるのに、回転させじっと見ているうちに、いくつかの色が見えてしまうのです。

白黒の回転面からなぜ他の色が見えるのでしょうか。この理解は大人でもなかなか難しいです。以下の順番で考えてみましょう。

条件1

蛍光灯の光は、赤、青、緑などの色々な色の光が合わさってできています。

白は全ての波長の光を反射する 黒は全ての波長の光を吸収する

考察1 人の目はどこまでOn・Offを認識できるかということを確認する必要があります。すなわち、白と黒の情報が徐々に目に飛び込み、脳へと刺激が送られていきます。PCなどの画面は50 or 60 Hzです。そのOn・Offが認識できないということは、少なくとも一秒間に50～60回の点滅には追いついていないことが理解できます。

考察2 ディスクの回転が遅いほど、色は見えやすくなる。これは、スピードが速いか遅いで、見えてくる色が変わってくるのではないかという予想です。

回転が速い＝人間の目にはOn・Offが認識できないスピードで黒と白が視野(目を動かさないで見える範囲)に入る。

回転が遅い＝遅すぎれば、On・Offの認識ができる。つまり止まっている状態と一緒に。

これを踏まえて...

仮の説1

色が見えるある程度の遅さでは、この認識できる範囲と、認識できない範囲の境界点に近い速さで、On・Offが繰り返されると思われる。すると、どうなるか。つまり、全波長が

静岡大学公開セミナー 2008年6月15日
教育学部 熊野研究室

目に達するとともに、全波長が吸収される、目に見える色合いは、全体的に黒に近づく。

考察3

模様が見えたり、内側から外側に向かって違う色が輪になったりするのとはなぜか。

①：回転するディスクの内側と外側では、どちらが速く回転しているか。

②：長波長と短波長ではどちらが目認識されやすいか

仮の説2

各波長ごとに見えやすい回転速度があるのではないか。

これが確かめられると、内側から外側に向かって違う色が見えるという現象が説明でき
そうです。さて、証明方法を考察してみよう。

・ ビデオカメラで撮る

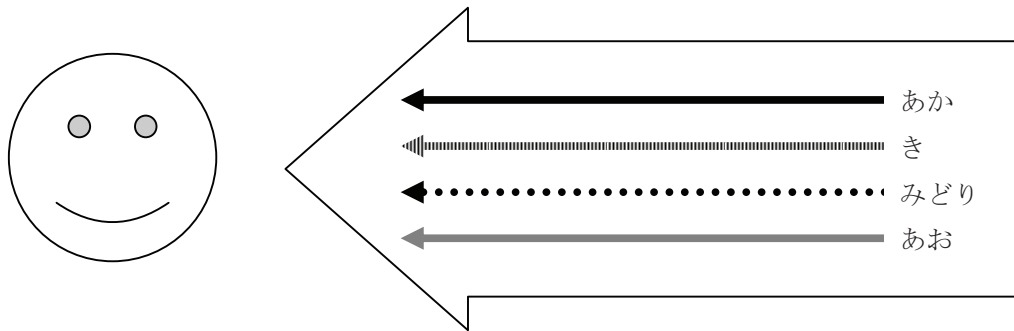
(50～60 Hzの点滅を認識できる。人の目とはほぼ同じように光を捉えるはずである。映像の専門家に
よれば、デジタルでは人の目に「見えにくい」ものは捉えないので、アナログカメラが better とのこと)

- ・ 一秒間に感じるOn・Offを調節できる？（コマ送り速度を変えればいいのか?...
変えられるのか？)

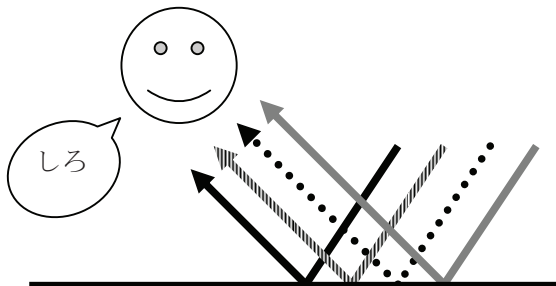
もっとくわしく知るために。

ベンハムのコマ：<http://www2.tokai.or.jp/seed/seed/minna7.htm>

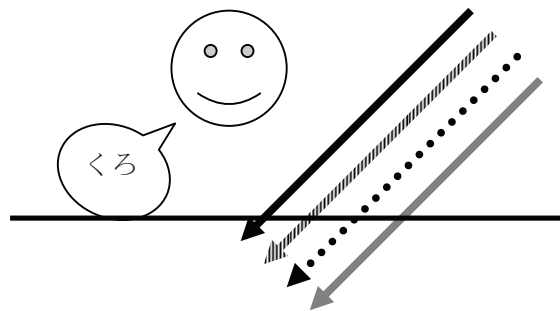
太陽の光や蛍光灯の光は、赤、青、緑など色々な色の光が集まってできています。



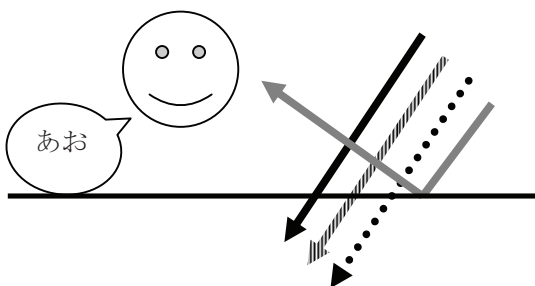
白は、光を鏡のように反射しています。



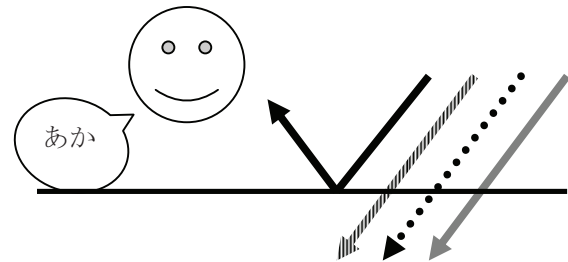
黒は、光を反射せずに吸収してしまいます。



青は、青の光だけを反射して、残りの色の光を吸収しています。



赤は、赤の光だけを反射して、残りの色の光を吸収しています。



コマをまわして黒と白を交互に見ることで、色々な色が集まった光から一つの色の光を取り出して見ることができます。

[講義のまとめ]

不思議感動！ 科学する心とは！？

五條由美子

講義を設定するにあたって

静岡県知的障害者就労研究会主催の就労フォーラムでは、毎年、本人部会を行い、「大学で学ぼう」の講義内容について、希望を聞いている。その中で、毎年、希望が出てくるのが、科学的な分野である。昨年度は、地震についての講義とペットボトルモータ作りを行った。今年度は、「実験をやりたい」という受講者の希望に応じて、静岡大学教育学部の熊野善介教授に、科学の不思議を味わえる講義を設定していただいた。

講義の中に、工作や実験を多く取り入れた。実際に自分で作り、体験する活動は、受講者の好奇心をかきたてること、完成したときの達成感があること、不思議に気がついたときの発見があること、学びのパートナーとの共同作業ができることなどの点で、効果的である。

講義の流れと内容

①回転する木の円柱の秘密

ひとつのテーブルに受講者と学びのパートナーがなるべく同数になるように着席。実験は一人ひとり行うが、同じテーブルのメンバーで協力し合うようにする。

【実験1】 長さが直径の2倍の円柱、3倍の円柱、4倍の円柱の3種類を用意。それぞれの円柱の片方の端に丸いシールを貼る。横に置いた円柱の端を指ではじいて回転させ、シールがどのように見えるかを実験する。見えるシールの数が、長さが直径の2倍の円柱は2つ、3倍の円柱は3つ、4倍の円柱は4つであることに気付く。



【実験2】 円柱の一方の端に青いシール、反対側の端に赤いシールを貼り、どちらかの端を指ではじいて回転させる。青いシールの側をはじいたときには青いシールだけが、赤いシールの側をはじいた時には赤いシールだけが見えることに気付く。

これらの現象が、人間の目が持つ残像現象によって起こることを映像で説明する。アニメーションもこの原理を使って作っていることを説明する。ドーナッツに群がる虫の画像を見る。

②回転する模様不思議

【実験3】 ベンハムのコマの実験。白色と黒色だけの模様のコマを作る。回転させてどんな模様が見えてくるかを実験する。赤が見えた、黄が見えた、青が見えた、などの声が聞かれ、いろいろな色が見えることに気付く。

なぜ、こんな現象が起こるのかを説明する。太陽の光や蛍光灯の光は、赤、青、緑など、いろいろな色の光が集まってできている。白は鏡のように光を反射している。黒は光を反射せずに吸収する。コマをまわして黒と白を交互に見ることでいろいろな色が集まった光の中からひとつの色を取り出してみることができる。

【実験4】 偏光板めがねを二つ重ね合わせて蛍光灯の光を見る。ひとつのめがねを固定して、もうひとつのめがねを回転させていくと虹色が見える。90度に重ね合わせたときに、暗くなる。

なぜ、こんな現象が起こるのかを説明する。光にはいろいろな色が混じっている。偏光板により、光が屈折するために、いろいろな色が見えてくる。90度に重なったときには、光が通らなくなるため、暗く見える。

学びのパートナーとの学習について

- ・科学の内容が「不思議」と思えるもので、特に光に照らすと虹色になるのは、興味深かった。
- ・消える蛍光灯を見つけた時の表情がとても印象に残りました。
- ・白と黒の2色しか描かれていないコマを回すと黄や青色が見えて、とても興味深かった。
- ・光が虹色に見えたりする話はどのようにしてフィルム1枚であんなふうに見えるのか不思議で、見たり聞いたり楽しかったです。
- ・少し内容が難しかったのではないかと、という部分もあります。でも、実際に自ら体験する活動が含まれていたため、楽しくできました。
- ・障害をもった方が理解しにくい所は自分なりにフォローしようと努力できたし、相手が楽しそうに取り組んでいることから自分も楽しく活動できた。
- ・自分達で作成することや、やってみて何かに気づくかとかわかっている所があったが、ばくぜんといわれてもわからない点が多かったため、もう少し幅をちぢめた質問にしたり、作り方も詳しく説明した。
- ・一緒に取り組みながら、難しそうだな、と見えるところは手伝ったりしましたが、できるかぎり会話などしながら手伝いすぎないようにした。
- ・作業の手順を説明した。作業自体の手伝いはあまりしないようにし、口だけで説明するようにした。道具の使い方を確認した。驚きを一緒に感じた。
- ・実験のやり方がよく分からないようだったので見本を示したり、実験から分かることを一緒に考えたりした。

講義を終えて

- ・4つの実験を通して、科学の不思議を感じることをテーマとしていた。最後に、テキストの冒頭部分「不思議だなと思ったり、自然の中の変化に感動したりできたら、あなたはもう科学の入り口にたどりついているのです」を音読し、科学の不思議を体験できた人と聞かれ、多くの人が拍手でこたえていた。
- ・実験の意味ややり方がよく分からない人もいたが、取り組みは積極的で楽しそうであった。まずは、円柱やコマをうまく回転させることに夢中になっていた。そのあとで、シールの数や色、コマの色の变化や蛍光灯の色の变化に気づき、驚きを感じていた。
- ・実験が多かったために、学びのパートナーと自然に関わり合う場面が多く見られた。やり方の説明や細かな作業では、支援を受けていたが、一緒に不思議を体験したり感動したりしていた。
- ・テキストには、今回の実験について説明したホームページも紹介されていた。今回の講義をきっかけに、身の回りの自然や生活に、興味の幅が広がっていくことを期待したい。

【講義②】

現代ファッション事情

～流行は誰が考えるの？どうやって決まるの？～

大橋 芳幸

現代ファッション事情

～流行は誰が考えるの？誰が決めるの？～

2008年6月16日(日)

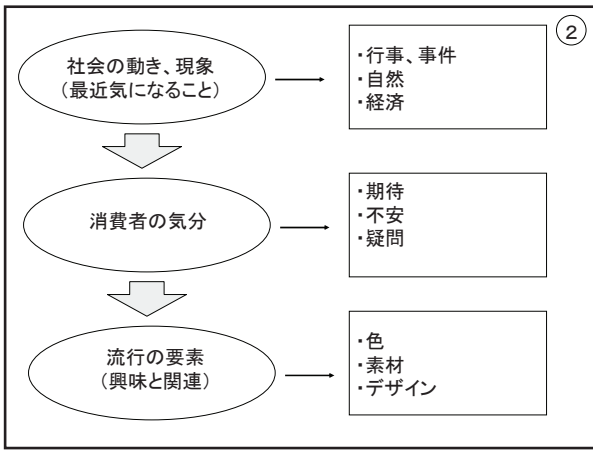
1

「HERO」久利生検事の茶色のジャンパー。

「踊る大捜査線」青島刑事のカーキのコート。

①

2



3

スポーティーなイメージの服

4

ナチュラルなイメージの服

5

ALEXANDER MCQUEEN

6

BURBERRY PRORSUM

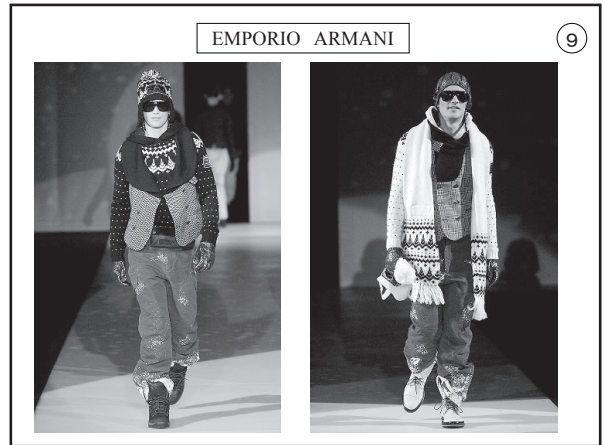
7

D&G

8



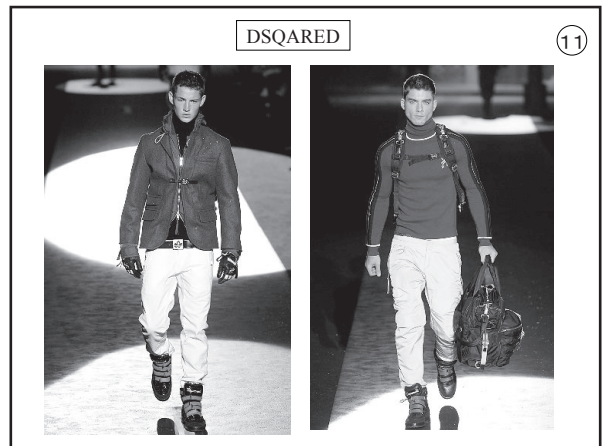
9



10



11



12



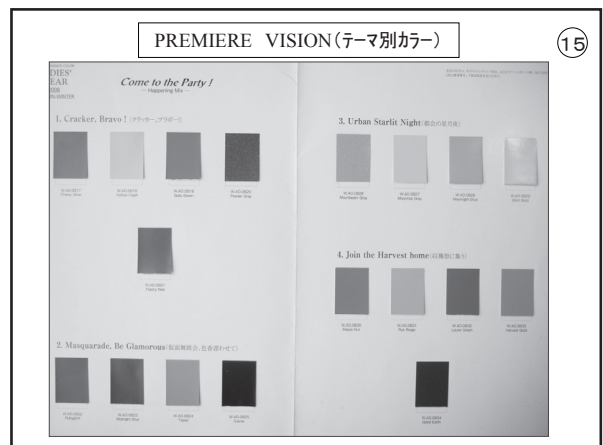
13



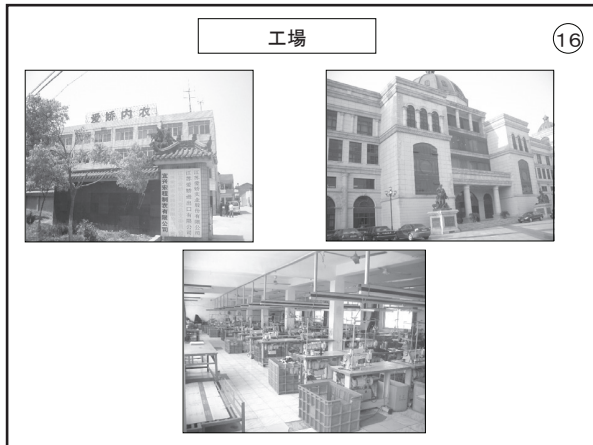
14



15



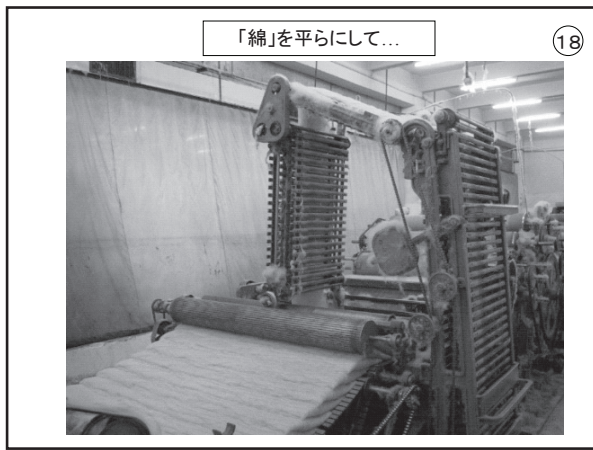
16



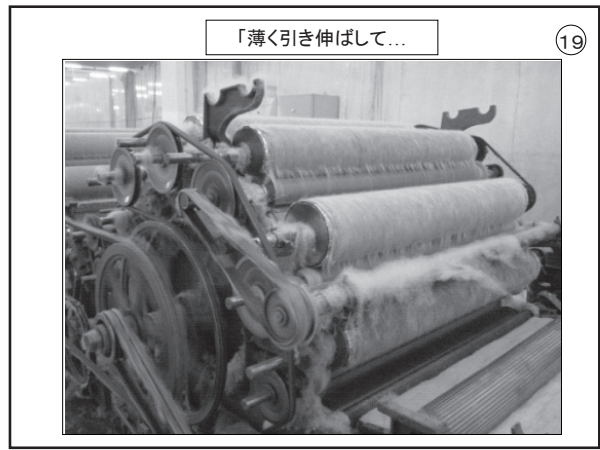
17



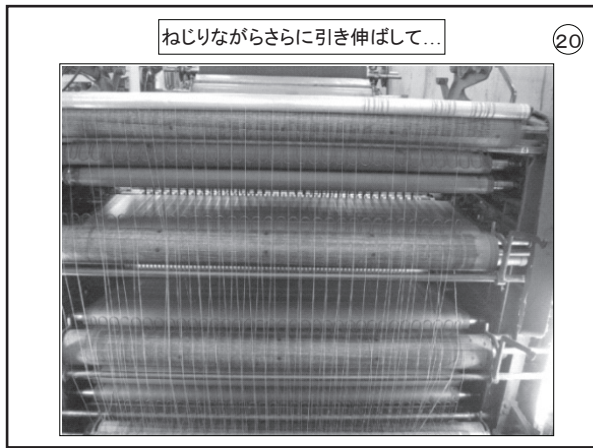
18



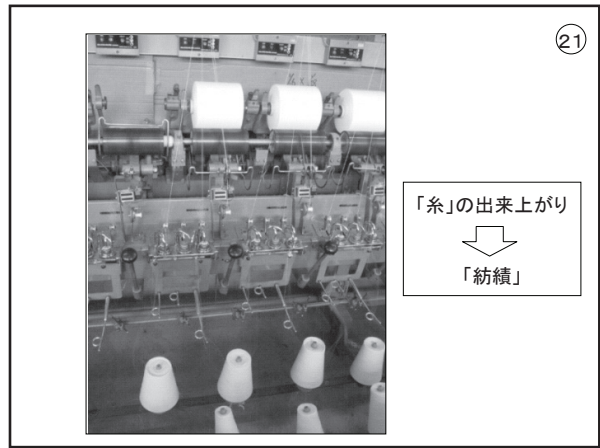
19



20



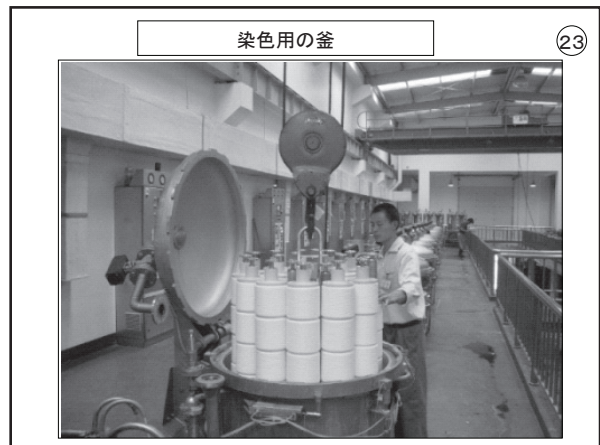
21



22



23



24



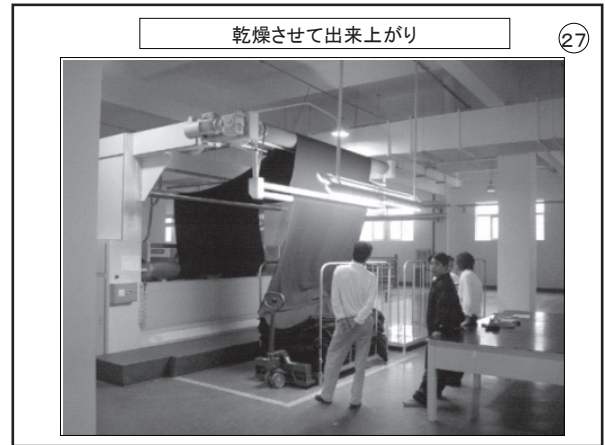
25



26



27



28



29



30



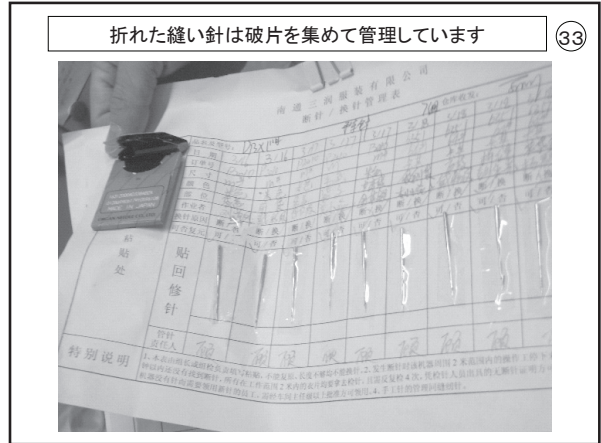
31



32



33



34



35



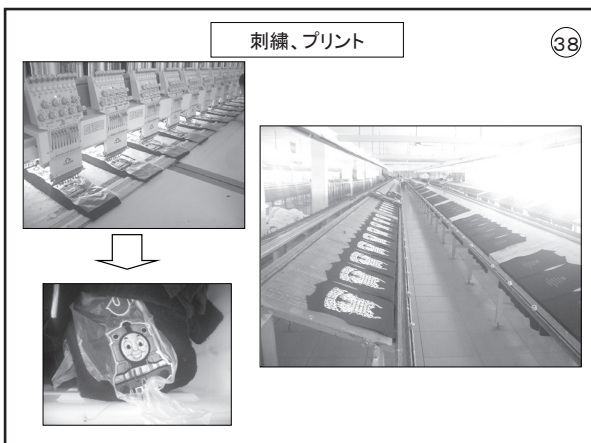
36



37



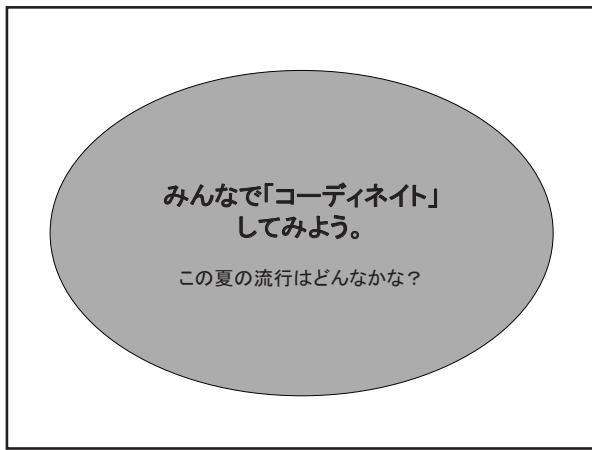
38



39



40



2008 静岡大学公開セミナー 「学ぶって楽しい！—大学で学ぼう—」

現代ファッション事情 ～流行は誰が考えるの？どうやって決まるの？

講師 大橋芳幸先生（株式会社コックス ブランド開発部長）



みんなで考えよう！



第1問！

- ファッションの流行に関連しそうなことで、
- ・最近世界中で話題になっていること
 - ・ニュースなんかでよく見かけること
 - ・みんなが気になること、興味があるのは何でしょう。
- それはどんな流行につながりそうですか。



第2問！



みんなで考えよう！

○流行に関して、もっとも早く提案されるのが「色、素材」です。さて、それはどのくらい前に提案されるのでしょうか？

Blank rounded rectangular box for answer.



第3問！



みんなで考えよう！

○一番たくさん服を生産している国はどこでしょう？

Blank rounded rectangular box for answer.



第4問！



みんなで考えよう！

○これは、何をしている工程でしょうか？

Large blank rounded rectangular box for answer.

[講義のまとめ]

現代ファッション事情～流行は誰が考えるの？どうやって決まるの？～

高木 亮

講義を設定するにあたって

静岡県知的障害者就労研究会のフォーラムで「大学で学ぼう！」で取り上げてもらいたい話題を質問したところ、ファッションのことが話題に上がり「今年の流行〇〇色だとか、こんな形とかTVで言うけれど、それは誰がどのように決めているの？」「企業はそれを受けて、どんな風に商品開発をして、販売戦略をたてているの？」といった内容の疑問の声があがった。

ファッションについては、受講生にとって毎日の生活の中で身近な話題である。企業の方から直接お話を伺う機会を設定することで、より現在の状況に精通した、わかりやすい講義を追求し、知的好奇心を喚起する学習活動にしたいと考えた。

<重視した点>

- ①講師が衣料品販売の会社を経営されているプロフェッショナルな方であること。
- ②学習者参加型のクイズコーナーを設けたり、“学びのパートナー”である大学生と社会人との共同作業を取り入れたりすること。
- ③ファッションについて映像や実物を提示して受講者がイメージを持ちやすくすること。

講義の内容

①「流行」は誰が考えて、決めるの？

- ・デザイナーと呼ばれる人たちの中の一部が基を考えた服や人気タレント（「ヒーロー」のキムタク、「踊る大捜査線」織田裕二等）が着ていた服が流行ったりする。
- ・しかし、この流行を決めるのは、服を購入する消費者である。一般の人たちがそれをよいと思って身につけなければ「流行した」とは言えない。
- ・たくさんの人が同じような格好するようになり、それが「かっこいい」「おしゃれ」だから自分も着てみたいと思ったときに「流行」したと言うことである。

②「流行」を生み出すにはどうすればよいか？

- ・気まぐれな消費者に気に入られるように、時代の「流れ」、時代の「気分」を感じさせるものをお店の人が送り出す。
- ・世の中の人たちが感じている「気分」が「流行をつくるもと」になる。
→社会背景を表現することが重要
- ・今年はどうな社会背景が影響して流行が生まれるか？<質問>→発表：北京オリンピック、競技用不着問題、地球温暖化、ガソリン高騰、四川省大地震、異常気象等
- ・オリンピックの年→スポーティーなイメージ エコ→ナチュラルなイメージ
社会の雰囲気をもっと伝えていく。（パリコレクション、ミラノコレクションの映像）

③どのくらい前にファッションの流行が提案されるか？

- ・ヨーロッパでもっとも権威のある「色と素材の展示会（プルミエールビジョン）」の映像
- ・色と素材は1年半前から決まる。（大体のスタイル決まるのが2年半前）

④一番たくさん服を生産している国は？

- ・一番たくさん服を作っている国は？<質問>→発表：日本は高い、メイドインチャイナ、中国
- ・解答：中国（上海の工場の映像）→中国以外にもインドやベトナムなどアジアが大きな生産地。

⑤原料から服になるまでの流れは? (工場の映像)

①紡績 (綿にして糸にする) ②編み立て (糸から生地) ③染色 (色をつけます) ④裁断 (洋服の形の部品をつくる) ⑤縫製 (1つずつ縫い合わせ) ⑥仕上げ (ボタンなどをつけてアイロンかけてきれいに) ⑦検品 (ちゃんとできているか調べる。検針など) ⑧梱包・出荷

→輸入→店→コーディネートしてさらに魅力的に見えるように店員がディスプレイを飾る。

⑥今年の皆さんが提案するファッションを自由に作ってみよう!

〈作業〉お店の人達と同じように、お客さんに「流行」する今年らしいファッションを提案してみましよう。(準備されたシャツ、ブラウス、ジーンズ、帽子、ベルトなどをテーマを考えながら、社会人と学びのパートナーが協力してコーディネートして、発表する。

〈発表〉沖縄、涼しい、夏、ギザギザ、海、海～アロハ～、秋をさきどり、野球



⑦まとめ

- ・ファッションを文化的なものとして見て取れる。今どんなことが起こっているかの入口になる。
- ・いつも新鮮な前向きな気持ちで生活するために新しいファッションは役に立つ。
- ・会社はファッションを通じて「ゆたかな生活文化の向上に貢献する」ことを社是として掲げている。ファッションを楽しむことで皆さんの生活が豊かになれば素晴らしいことだと思う。

スモールワークのようす [卒業生・社会人] (アンケートの記述から一原文のまま)

- ・流行には社会のニュースが重要だなと思っていました。
- ・糸で、服を作っているところが楽しいと思った。
- ・私とお母さんがとくいことがあります。でも私もお母さんもおしゃれが一番大好きです。
- ・かっこよくなりたい。・これからファッションにこだわっていきたくと思います。
- ・いろんなファッションがあるからいろいろ考えてやるのが大切です。
- ・服の色やデザインが1年半前から考えられていたのにおどろきました。

講義を聴いて

- ・日常生活で身近に感じていた疑問が題材になっていたのも、社会人も学びのパートナーも大変興味深く講義に参加することができた。
- ・ファッションがテーマと言うことで、映像を多く活用してお話ししていただいたため、抽象的な表現でも社会人達に内容が伝わりやすかったと思われる。
- ・クイズ形式での応答では、社会人、学びのパートナーとも参加しやすかった。講師の投げかけに対して自発的に発表する場面が多くみられ、参加型の講義となり大変盛り上がった。
- ・講師の方の企業で販売している服、帽子、ベルトなどの製品を使って、実際に、コーディネート体験する活動では、社会人と学びのパートナーが積極的に話し合いながらファッションを作り上げていくことを楽しむことができた。ファッションを今まで以上に身近に感じる機会になったと思う。

【講義③】

消費生活を考えてみよう

色川 卓男

「消費生活を考えてみよう」

静岡大学准教授
色川 卓男

静岡大学公開セミナー 1

1

Shizuoka University

目次

1. 消費生活って
2. 「買わせよう」作戦！
3. どっちを買うか
4. こんな落とし穴も・・・
5. 困ったらどうするか
6. まとめ

静岡大学公開セミナー 2

2

Shizuoka University

1.消費生活(しょうひせいかつ)って・・・

- 消費生活とは、「私たちがごはんを食べたり、ジュースを飲んだり、気に入った服を着たりすることで、しあわせになること」です
- 私たちが生きていくのに、必ず必要なこと
- 食べたり、飲んだりする
- 服を着たりする
- 靴も必要だし・・・

静岡大学公開セミナー 3

3

Shizuoka University

消費生活って・・・

- でも「買う」必要があるのかわかりませんね
- 家でお米がとれれば、買わなくてすむわけです
- つまりこういうことです

静岡大学公開セミナー 4

4

Shizuoka University

消費生活って・・・

静岡大学公開セミナー 5

5

Shizuoka University

スモールワーク①

1. 今日、持っているもの、着ているもので、買ってきたものを3つあげてみましょう
2. 今日、持ってきたもの、着ているもので買ってきたものではないものを3つあげてみましょう(なければそれでいいですよ)

静岡大学公開セミナー 6

6

Shizuoka University

消費生活って・・・

- でも、今は家の畑で採って、生活する人の方が少ないです
- 多くの方は、店で食べ物や飲み物、服を買って生活しています
- だから、買い方を考える必要があるのですね
- 皆さんが買い方を考えることは、生き方を考えることなのです

静岡大学公開セミナー 7

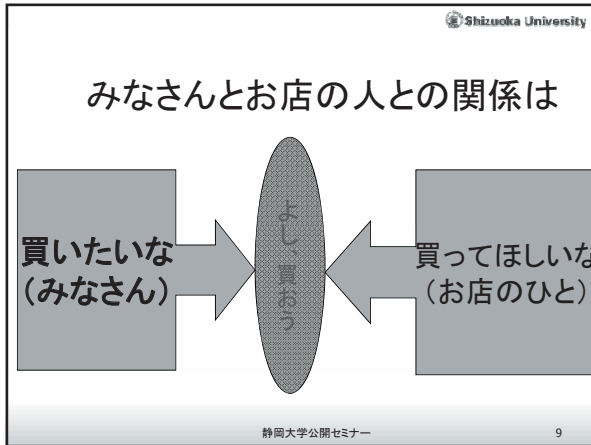
7

Shizuoka University

2.「買わせよう」作戦！

静岡大学公開セミナー 8

8



みなさんが「買いたいな」と思っているように・・・お店の人も「買わせよう」作戦をたてているのです！

■では、どのようにお店も人が「買わせよう」作戦をたてているのかを考えてみましょう

静岡大学公開セミナー 10

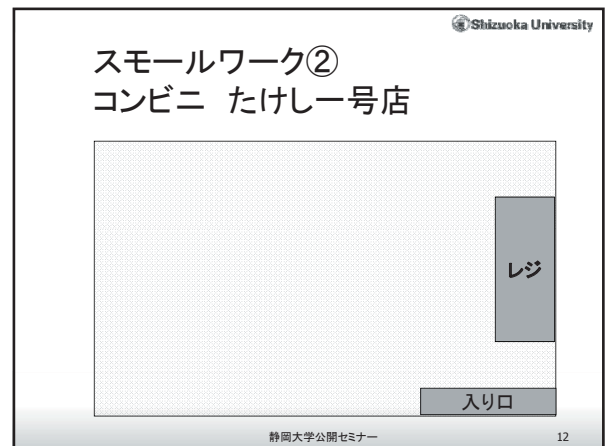
スモールワーク②

■ 図面をよく見てください
みなさんがよく使うコンビニでは、

①お弁当はどこにおいてありますか

②雑誌はどこにおいてありますか

静岡大学公開セミナー 11



その他の「買わせよう」作戦

レジ横の法則

- レジのすぐ横のところに、安くて、思わず買ってしまいそうな買い得商品を置き(和菓子系など)、ついで買いをさせる法則
- その他にも・・・
- お買い得品を店の前にならべるのは、それによって、他の商品を買ってもらうため

静岡大学公開セミナー 13

みんなに「買わせよう」としているぞ

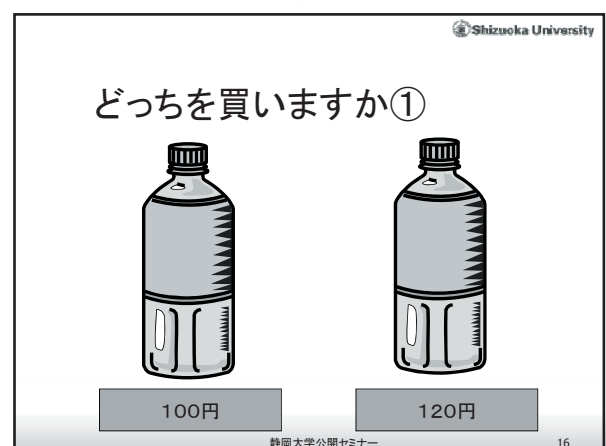
- お店だけがそんな作戦をたてているのでしょうか
- そうではありません
- みなさんが買う商品じしんも、みんなを「買わせよう」としているのです

静岡大学公開セミナー 14

3. どっちを買うか


- これからみせるペットボトルは、両方ともオレンジジュースです。
- みなさんはこれからオレンジジュースを買おうと思っています。
- どちらを買うのかを考えてみましょう

静岡大学公開セミナー 15



Shizuoka University

どっちを買いますか②



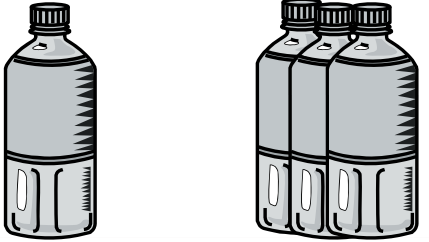
100円 120円

静岡大学公開セミナー 17

17

Shizuoka University

どっちを買いますか③



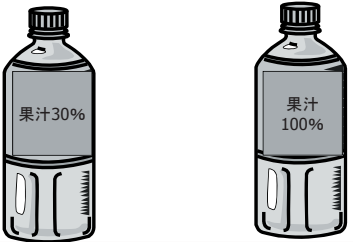
100円 1本120円
でも3本買えば300円

静岡大学公開セミナー 18

18

Shizuoka University

どっちを買いますか④



果汁30% 果汁100%

100円 120円

静岡大学公開セミナー 19

19

Shizuoka University

どっちを買おうかな

- 商品も皆さんに「買わせよう」作戦をしている
- ねだんをよくみる
- 自分のほしい分だけ買う
- 私たちは、色々な情報(じょうほう)をみて、商品を選んでいる
- それと、もう一つ、考えることがあります

静岡大学公開セミナー 20

20

Shizuoka University

スモールワーク③

- コンビニで、だいすきなお菓子を発見！でも、今月はおこづかいがのこってない。それでも、どうしても食べたいときってあるよね。
- きみならどうする？
 - ① ともだちからおかねをかりてかう
 - ② おこづかいがたまるまでがまんする

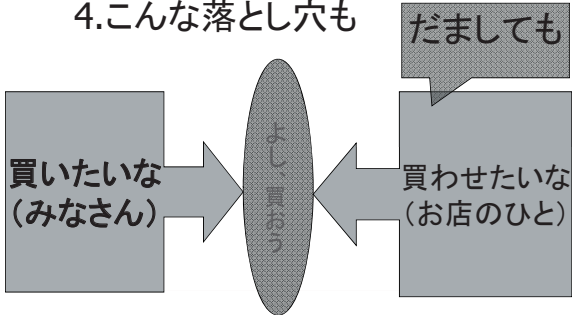
静岡大学公開セミナー 21

21

Shizuoka University

4.こんな落とし穴も

だまして



買いたいな (みなさん) よし言おう 買わせたいな (お店のひと)

静岡大学公開セミナー 22

22

Shizuoka University

いろんな「だましかた」があるのですが...

- ここでは、「デート商法」を実演してもらいますね

静岡大学公開セミナー 23

23

Shizuoka University

こんなことはありませんか...

- マルオはグループホームに住む24歳の男性。彼に声をかけたのは、街でアンケートを行っていたハナコ。
- 自分が働く店で二人きりで話をしたいと言われ、事務所の一室に連れて行かれました。
- 恋人気分のマルオですが...

静岡大学公開セミナー 24

24

Shizuoka University

- ハナコ: マルオ君っていうんだ。いい名前だね。
- マルオ: うん。
- ハナコ: ねえ、マルオ君って彼女いる？
- マルオ: いないよ。
- ハナコ: えっ、うそー、マルオ君の彼女になる人ってうらやましいなあ。
- マルオ: へへ

静岡大学公開セミナー 25

Shizuoka University

- ハナコ: 今日ね、私が働いているお店で指輪を安く売っているの。マルオ君の彼女になる人にプレゼントしたらどうかな、って思って声をかけたの。
- マルオ: うん。
- ハナコ: 私ならこの指輪をもらったら、すごくうれしいわ。
- マルオ: うん。

静岡大学公開セミナー 26

Shizuoka University

- ハナコ: いつもは100万円以上するんだけど、今日だけ特別50万円。一生大切に使えるから、損はないと思うな。
- マルオ: いいよ。
- ハナコ: わーっ。うれしい。マルオ君に勇気を出して声をかけてみて、よかった！じゃあ、ここにサインして。
- マルオ: うん、わかった。

静岡大学公開セミナー 27

Shizuoka University

- ハナコ: マルオ君は運命の人のような気がする。また、わたしから電話してもいい？
- マルオ: いいよ。
- ハナコ: マルオ君って、やさしいね。じゃあ、また今度ね。
- マルオ: バイバイ。

静岡大学公開セミナー 28

Shizuoka University

- その2ヶ月後・・・グループホーム
- マルオ: ただいま。
- 世話人: お帰り。マルオくん今日は何してたの。
- マルオ: ハナちゃんに会ってた。
- 世話人: ハナちゃん？だれ？
- マルオ: 彼女だよ。
- 世話人: そう。マルオ君、彼女が出来たんだあ。どこで知り合った人？

静岡大学公開セミナー 29

Shizuoka University

- マルオ: 街で声をかけられた。ハナちゃんは運命って言ってた。
- 世話人: へえー、いい人なの？
- マルオ: うん。ハナちゃんはかわいいし、僕のことをやさしいって、いつってくれるんだ。
- 世話人: そうなのお。よかったわね。あつとところでマルオ君、今月のグループホームの利用料、6万円払ってくれる？
- マルオ: ……やだ。

静岡大学公開セミナー 30

Shizuoka University

- 世話人: どうして？利用料はここに住んでいる人はみんな払っているんだよ。マルオ君は先月も払っていないから、本当はもつと払わなくちゃいけないのよ。
- マルオ: ……今はお金がない。
- 世話人: どうしてお金がないの？ちゃんとお仕事しているでしょ？貯金は？
- マルオ: 使った
- 世話人: 何に？
- マルオ: 指輪。

静岡大学公開セミナー 31

Shizuoka University


- 世話人: 指輪？指輪なんてしてないじゃない。あっ！もしかして、彼女に指輪を買ってあげてお金がなくなったの？
- マルオ: そうなのかなあ……
- 世話人: そうかもしれないよ。ちょっと貯金通帳を見せてごらん？
- (貯金通帳を世話人に渡すマルオ)
- 世話人: やっぱり……。ほとんど残ってない。だまされているのかもしれないよ。
- マルオ: ふーん、そうなんだ。(終わり)

静岡大学公開セミナー 32

Shizuoka University

5.困ったらどうするか・・・

- 身近な人に相談すること
- 身近な人を通じて、消費生活センターに行き相談すること



静岡大学公開セミナー 33

33

Shizuoka University

〈参考〉相談便利メモ

契約をしたのはいつですか?
〔 例 4月10日ごろ 〕

何を契約しましたか?
〔 例 ふとん 〕

いくらですか?
〔 例 30万円くらい 〕

どこから買いましたか?
〔 例 O×健康株式会社 〕

どんなふうに勧誘されましたか?
〔 例 業者が訪ねてきた 〕

なにかあったら、
こつこつじゅんばんで、
思い出してみよう

静岡大学公開セミナー 34

34

Shizuoka University

6.まとめ

- 消費は生きていくため、みんなの生活をよくするためにおこなっている
- 消費は「買いたい」わたしたちと「買わせたい」お店の人たちとのたたかいだ
- 消費ではわるいことを考えるひとたちもいる
- 消費でこまったら、はずかしがらずにみじかなひとにそうだしよう

静岡大学公開セミナー 35

35

おつかれさまでした

静岡大学公開セミナー 36

36

2008.10.19

ワーク①

1. 今日、持っているもの、着ているもので、
買ったものを3つあげてみましょう

2. 今日、持ってきたもの、着ているもので、
買ってないものを3つあげてみましょう

(買ってないものがなければ、かまいません)

2008.10.19

ワーク②

1. みなさんがよく使うコンビニでは、

①お弁当はどこにありますか

②雑誌はどこにありますか

下の図に書き込んでみましょう



2008.10.19

ワーク③

1. 本屋さんで、だいすきなマンガを発見！でも、今月はおこづかいがのこってない。それでも、どうしてもよみたいときってあるよね。

きみならどうする？

- ① ともだちからおかねをかりてかう
- ② おこづかいがたまるまでがまんする

【講義のまとめ】

消費生活を考えてみよう

山下 光司

講義を設定するにあたって

お金の使い方や家計簿の付け方について学びたい、という受講者の希望をもとに、静岡大学教育学部の色川卓男准教授に、消費生活に関する講義を設定していただいた。

講義に先立って、静岡、焼津、藤枝の青年学級の皆さんに消費生活に関するアンケートを行った。内容は、衣料品や装飾品を購入するときに困ったことや店員に聞きたいこと、買い物に関わる被害にあったことがあるか、被害にあったときの対処法、被害にあわないための方法、講師に聞きたいことなどである。

このアンケートの結果から、買い物には家族と一緒にいたり、事前に相談したりしている人が多いことが分かった。携帯電話のサイトに気をつけることや、クーリングオフ制度などの知識を持っている人もいたが、被害にあったときの対処法としては、警察に連絡すると答える人が多かった。

講義の流れと内容

①消費生活って

【スモールワーク1】 今日の衣服や持ち物で、買ってきたもの、買ってきたものでないものを、それぞれ3つ挙げる。

買ってきたものはたくさんあるが、買ってきたものでないものはほとんどない。もらったものも元は買ってきたものである。今は、自分で作ったもので生活している人は少ない。多くの人が店でものを買っている。だから買い方を考える必要がある。

②買わせよう作戦

【スモールワーク2】 コンビニで弁当はどこにおいてあるか、雑誌はどこにおいてあるかを、配置図に記入する。

お弁当の棚の隣におかずの棚があり、その隣に飲み物がある。その後ろにパンの棚があり、横にお菓子が並んでいる。これをお弁当街道という。店の人がいろいろ買わせようとしている作戦。

雑誌は入口のところに並んでいる。店に客がいないと入りにくい、窓際に雑誌の棚があると見ている客が外から見えるので入りやすくなる。これをぶらり街道という。



③どっちを買うか

- ① 100円のジュースと 120円のジュース
- ② 100円のジュースと「定価200円今だけお得」のシールがついた120円のジュース
- ③ 1本100円のジュースと1本120円だが3本だと300円のジュース
- ④ 果汁30% 100円のジュースと果汁100% 120円のジュース

商品も買わせよう作戦をしている。情報を見て、家で本当に使うものを考えて買った方がよい。

【スモールワーク3】 コンビニで好きなお菓子を見つけたが、小遣いがない。友達からお金を借りて買うか、お小遣いがたまるまで我慢するか。

④こんな落とし穴も

デート商法を学生がロールプレイで実演。

⑥困ったらどうするか

まず、身近な人に相談し、消費生活相談センターに行った方がいいと言われたら、行くとよい。静岡駅南口前に消費生活相談センターがある。相談するときには、いつ、何を、いくらで、どこから買ったのか、どんなふうに勧誘されたかをメモで書いていくとよい。

⑥まとめ

消費生活は、私たちが生きることと一緒にある。自分が気持ちよく幸せに暮らせるとよい。店は買わせよう作戦をしている。中には、消費のことで悪いことを考えている人もいる。困ったことがあったら恥ずかしがらずに相談するとよい。

スモールワークのようす（学びのパートナーによるアンケートの記述から－原文のまま）

- ・コンビニの商品の並び方や回し方について今まで考えたこともなかったので、とても興味深かったです。また、ネーミングがとても面白く受講生の方と大笑いしてしまいました。話題が身近だったこともあり、親しみやすかったです。
- ・一見難しい講義のようにみえますが、内容が、普段我々がよく利用するようなコンビニを例にしたり、誰にでもおこりうることを劇に入れながら説明したりとわかりやすく、見ていて面白い講義でした。
- ・コンビニやスーパーでの商品の場所をとても細かく書いてくれる方もいたし、講義の中での問題に興味を持って取り組んでいたのもとてもいいなあと思いました。
- ・よくコンビニを利用する方が多く、コンビニの店内を書くとき、うれしそうにコンビニについて話してくれました。
- ・消費生活の方は、消費生活の意味を理解できなかったため、あまり興味を持ってなかったと思う。ワークは、何とか取り組むことができていた。

講義を聴いて

- ・事前にアンケートをとったことで、受講者の生活の様子や問題意識などを把握して、実態に合った講義内容が設定されていた。
- ・スモールワークでは、身近な問題が取り上げられたため、学びのパートナーと話し合いながら興味深く取り組む様子が見られた。特に、コンビニの販売戦略は、昨年度の大学講座でも取り上げて非常に好評だった話題で、今回も、店内の商品配置を書くスモールワークに、積極的に取り組んでいた。
- ・デート商法の学生によるロールプレイングでは、青年が高額の指輪を買わされる場面で、受講者からどよめきが上がった。印象が強かったようだ。講義の最後では、受講者から、消費者をどんな言葉でだますのかという質問や、自分が被害にあいそうになったときの報告があり、学んだことを自分自身の問題としてとらえ、実生活に活かしていこうとする様子が見えた。

【講義④】

音楽のしくみを知ろう
～うたのはじめはドレミ～

北山 敦康

学ぶって楽しい！—大学で学ぼう—
2008・10・19

音楽のしくみを知ろう

♪うたのはじめはドレミ♪

静岡大学教育学部
北山敦康

1

きたやま あつやす
北山 敦康

つくみ
大分県 津久見市

静岡県

2

幼稚園のときに愛用した木琴（もっきん）

そして、小学校では
鼓笛隊（こてきたい）の縦笛（たてぶえい）

3

小学校で習ったことは

- 知ってる歌はドレミでうたおう！
…でも、楽譜を教えられた記憶はない。
- そして、いつか聞いた「魔法の言葉」…

一番右側の＃（シャープ）は「シ」
一番右側の♭（フラット）は「ファ」

4

歌のおわりの音は？

- 明るく楽しい歌は「ド」でおわる
— 富士山（～ドラファミミラソ、ファミレドド）
— ふるさと（～ソソドレミ、ファファレド）
- 悲しそうな歌は「ラ」でおわる
— 荒城の月（～ミミラシドシラ、ファレミミラ）
— 小さい秋見つけた（～ミミレドレ ミミミラ）

5

ドレミの歌

映画「サウンド・オブ・ミュージック」
(1965年、監督：ロバート・ワイズ)

画面の下に出てくる歌詞を見ながら、みんなで歌いましょう！♪

6

ドレミの歌

ドレミの歌

ド レ ミ ー ド
レ ミ ファ ソ ド
レ ミ ソ ソ ドレミ
ラ - ソ ドレミソラ - ラレ

みふみそらし - しあふみそらしどし
らふみしそどどしらすみみれどしらすど


7

ドレミはもともと自由なのだ！

- 「楽器のためのドレミ」は指の記号なので、それぞれの楽器用におぼえるしかない。
だから、場合によって楽器はむずかしい。
- 「歌のためのドレミ」は音楽のもとのたかちなので、自分のうたいやすい音から自由にはじめればよい。
だから、歌はだれにでもうたえる。


8

**ドレミは
音楽の学習を
やさしくする
ために
考えられた
ものです。**




ゲイード・ダレッツォ (Guido d' Arezzo)
991年または992年-1050年

9



この時、
はじめて「教えられる」のではなく
はじめて「意識させられる」のである。

ティ
ラ
ソ
ファ
ミ
レ
ド



ハンドサイン

コダーイ・ゾルターン
Kodály Zoltán (1882-1967)

10

ド



あんてい
安定
(長調の場合) さあ、ここから始めるよ～

11

レ



かっぱつ
活発
(長調の場合) ほら、動き始めた。

12

ミ



へいおん
平穩
(長調の場合) ホツとひと息。(^_^)v

13

ファ



さびしい
寂しい
(長調の場合) ミにもどりたいたいよ～ (T_T)

14

ソ



どうどう
堂々
(長調の場合) ちょっとひと休みしよう。

15

ラ



かなしい
悲しい
(長調の場合) もう動きたくないんだけど。

16

テイ
(シ)



するどい
鋭い

(長調の場合) あ、すぐそこにドがある！

17

ド



あんてい
安定

(長調の場合) ほら、帰ってきた。

18

ところで、^{はんおん}半音って何？

出てくる音と左手の位置
(フレット)を観察してみよう。

ミ→ファ
と
シ→ド
に注目！



19

ハンドサインをおぼえたら...



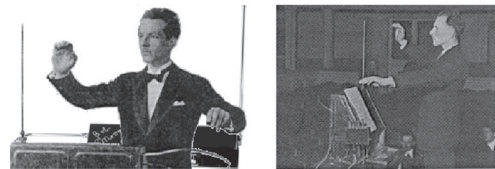
みんなであうたってみよう♪

20

えんそう
うたうように演奏できる
おもしろい楽器

21

テルミン(Theremin)

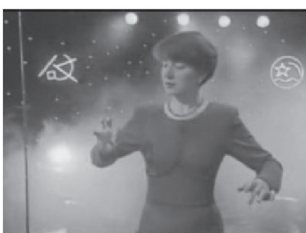


- 1920年代初めにロシアの音楽家・物理学者であるレフ・セルゲイヴィッチ・テルミン博士 (Lev Sergeevich Termen / Leon Theremin, 1896-1993) によって発明された最も初期の電子楽器。

22

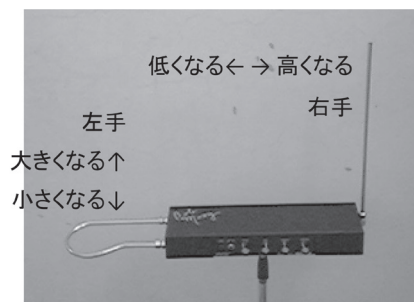
リディア・カヴィナさんの演奏
「月の光」(ドビュッシー)

Theremin Lydia Kavina plays "Claire de Lune" (Youtube より)



23

演奏の方法



24

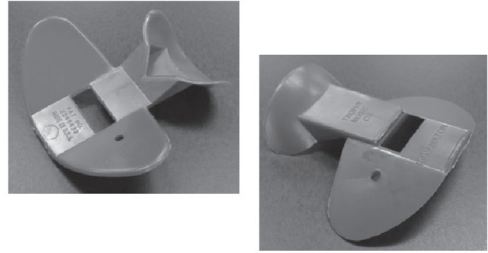
じゃあ・・・



みんなでやってみよう♪

25

・・・ところで、これは何でしょう？



26

モスリンさんの演奏 「ダニー・ボーイ」

2008/1/19 定期ライブ in ミーヤカフェ@銀座 (Youtube より)



27

はなぶえ ノーズフルート (鼻笛)



みんなでふいてみよう！

28

三	二	一
志を 果たして	いかにいます	うさぎ 追いし
いつの日にか 帰らん	つつが なしや	小ぶな つりし
山は 青き	雨に 風に	夢は 今も
水は 清き	思 い はず	わす れ が た き
ふるさと	ふるさと	ふるさと
	友 が き	か の 山
	父 母	か の 川

ふるさと

高野 辰之 作詞
岡野 真一 作曲

29

おわりです



30

[講義のまとめ]

音楽のしくみを知ろう～うたのはじめはドレミ～

五條由美子

講義を設定するにあたって

静岡県知的障害者就労研究会のフォーラム（毎年2月に実施）で、本人部会を実施している。その中で、音楽に関係する講義を聞きたい、という要望が毎回多く寄せられており、今回、はじめて音楽に関する講義が実現した。

講師は静岡大学教育学部の北山敦康教授にお願いした。先生は、日頃より、サクソフォン演奏や吹奏楽の指導を行っており、中学校、高校、地域の活動とも連携して、音楽やその活動に深く関わっている。「音楽（うた）の基礎はドレミで、音楽の楽しみもドレミから始まる。むずかしいことではなく、みんなだれもが楽しいのですぐに入っていける」という先生のことばから、だれもが楽しく参加でき、音楽が身近に感じられることを大切にしたい。

講義の流れと内容

①北山先生の紹介

小学校の時には知っている歌をすべてドレミで歌っていた。楽譜にドレミを書くなどという先生もいるが、どんどん書きこめばいい。書くのが面倒臭くなってきたら覚えたあかし。

明るい歌は「ド」で終わる。悲しそうな歌は「ラ」で終わる。そういう経験をするうちに音楽の構造がわかってくる。

②ドレミの歌

映画「サウンド・オブ・ミュージック」の映像に合わせてドレミの歌を歌う。楽器のためのドレミは指の記号なので覚えなければならないが、歌のためのドレミは、自分の歌いやすい音から自由に始めてよい。グイード・ダレッツォが音楽をやさしく学ぶために考え出したもの。

③ハンドサイン

コダーイ・ゾルターンが、ドレミを意識するために、体で表すように作った。北山先生のハンドサインに合わせて声を出す。左手のハンドサインに合わせて歌う人と、右手のハンドサインに合わせて歌う人の2グループに分かれて歌い、二部合唱をする。

④半音

キーボードで、ミとファ、シとドの間に黒い鍵盤はない。ミとファ、シとドはすぐ隣の音、これを半音という。ファはミに帰りたい、シはドに向かいたい、という性質がある。この仕組みが分かると音楽がだんだんわかってくる。

⑤テルミン

テルミンは歌うように演奏できる楽器であり、ロシアの音楽家レフ・セルゲヴィッチ・テルミン博士が100年前に作った電子楽器。

リディア・カヴィナさんの「月の光」の演奏をVTRで視聴する。学生の「星に願いを」の演奏を生で聞く。希望者3人が選ばれて、実際にテルミンを演奏する。

いい音楽を判断する方法は、やってみたいと思ったらいい曲、いい楽器である。



⑥ノーズフルート（鼻笛）

アメリカから輸入したテルミンと似た楽器、人間テルミンとも言える楽器を全員にプレゼントする。鼻にぴったり当て、口を開け、鼻から出た息を口で共鳴させて音を出す。口の形で音程を変える。

モスリンさんの「ダニーボーイ」の演奏をVTRで視聴する。

全員で「ふるさと」をテルミンで演奏する。

学習の様子（学びのパートナーによるアンケートの記述から一原文のまま）

- ・音楽になると（特に歌）表情がより豊かに楽しそうに大きな声で歌っていた。
- ・歌をうたったり、笛をふいたり自分たちが活動する場面がたくさんあって、積極的に参加できて楽しかった。
- ・音楽をみんなで一緒に活動したときは、共通意識をもち、成功したり上手にできた時はとても喜んでいました。
- ・実際歌を歌ったり、ノーズフルートを使って音を出したのですが、講義が終わってもまだ歌ったり、音を出したりするほどでした。
- ・ノーズフルートをはじめすごく苦戦していて、音が出た時はとてもうれしそうな様子でしたし、私自身もすごく嬉しくなりました。
- ・ふえの吹き方など、口で説明するだけではよくわかっていない人がいた。何か絵があればわかりやすいと思う。

講義を聴いて

- ・シャープ、フラットの話や、長調、短調の話は、わかりにくいところもあったが、ドレミの歌をみんなで歌う活動から、楽しく参加する人が増えた。小さかった歌声もだんだん大きくなり手を叩いて歌う人、体を揺らす人、振り付けをしながら歌う人など、自分なりのスタイルで楽しむことができた。
- ・実際に歌を歌ったり、楽器を演奏したりする活動が多く組み込まれていたのも、楽しく参加できた。ハンドサインで2部合唱をしたこと、テルミンでふるさとを全員で演奏したことなど、一人ひとりも十分に活動しながら、会場全員で心を合わせることができた。
- ・テルミンの演奏では、なかなかコツがつかめず、苦労している人が多かった。学びのパートナーや職員からアドバイスを受けて、音を出せるようになった人もいた。一人ひとりにテルミンがプレゼントされたので、あきらめずに粘り強く練習していた。
- ・専門家の演奏をVTRで視聴したり、テルミンの演奏を生で聞いたり演奏したりするなど、本物にふれあうことができ、貴重な経験をすることができた。
- ・多くの人が、音楽を身近なもの、楽しいものと感じることができたと思う。これからの生活でも、音楽に親しんでいけるとよいと思う。

【資料編】

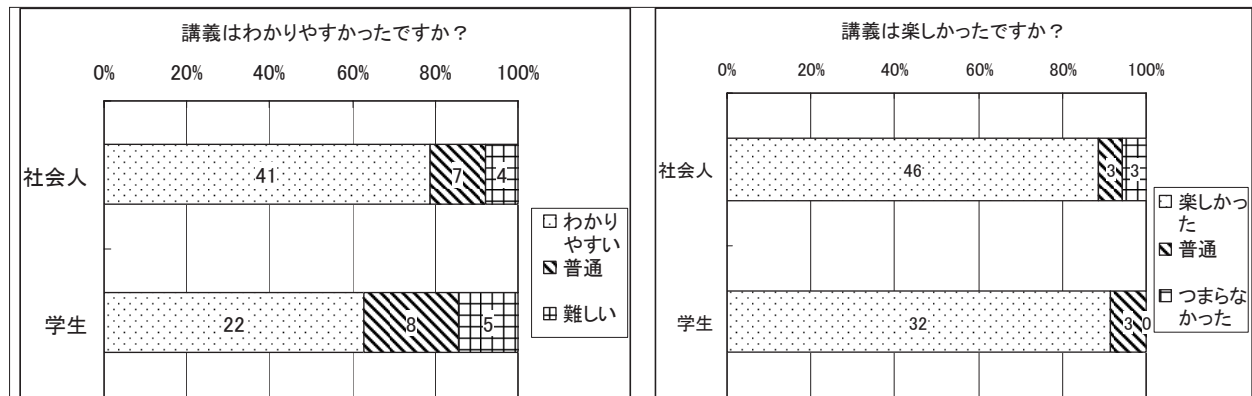
授業後のアンケートのまとめ
学びのパートナーとして、いっしょに受講して
参加者の感想
スタッフ名簿
これまでの「学ぶって楽しい！ー大学で学ぼうー」

授業後のアンケートのまとめ

大畑 智里

各講義の終了後に行った4回のアンケートを以下のようにまとめる。

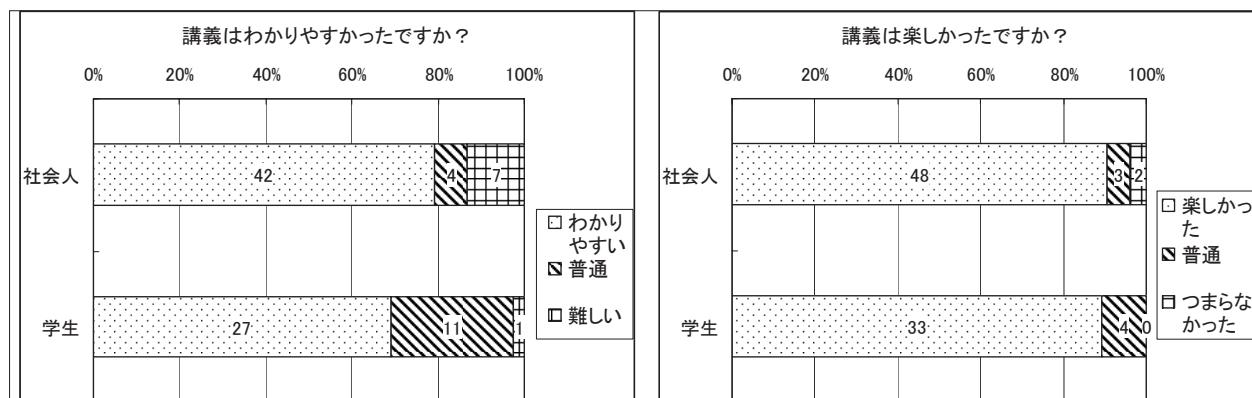
○講義1「不思議感動！科学する心とは！？」（熊野善介先生）



色と光の関係を、コマや変光板などを使って実際に体験しながら学ぶことができた。社会人と学生がその不思議を一緒に感じる事ができたのではないかと思う。

こうして、仕組みが目に見えにくい不思議な科学の題材も体験を含めることで、多くの受講者から「楽しかった」との感想を得ることができた。

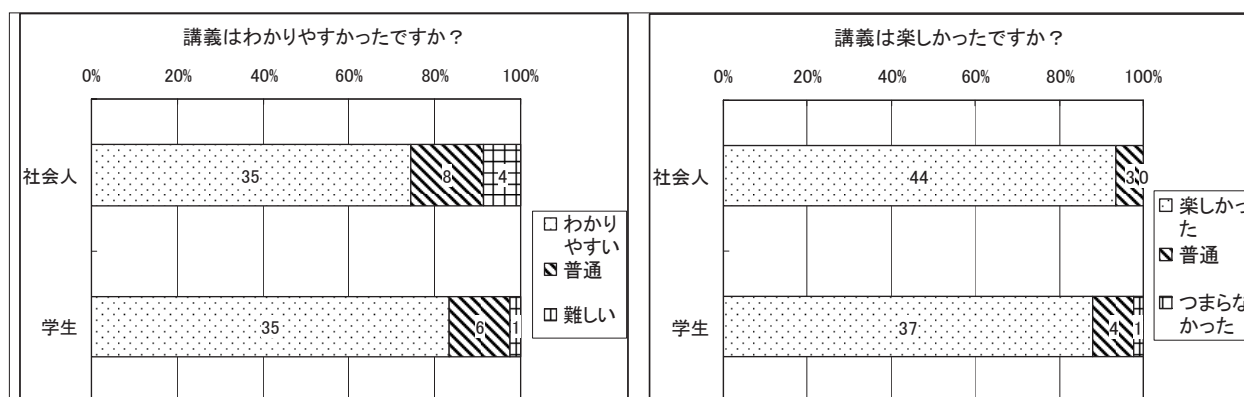
○講義2「現代ファッション事情～流行は誰が考えるの？どうやって決まるの？～」（大橋芳幸先生）



「ファッション」をテーマに、流行の作られ方や流通の仕組みなど、日ごろ身に着けているものがどのような流れの中にあるのかを感じることができた。

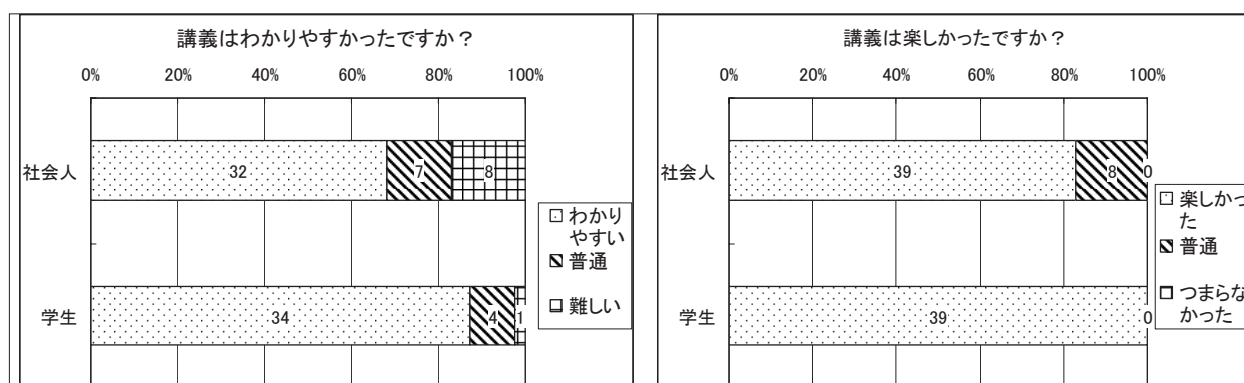
さらに、講義の後半は、それぞれのグループにわかれ、実物を使ってコーディネートを楽しめたことでファッションに対する印象も強まったのだろう。

○講義3「消費生活を考えてみよう」（色川卓男先生）



「お金を使う」ために、社会にはどのようなことがあるのかを知ることができた。コンビニの商品陳列の秘密は、日ごろからコンビニを利用する人も多いので、「わかりやすかった」様子である。また、学生の劇を通して、お金に関するトラブルも紹介していただいたことで、社会人として“気をつけていこう”という意識にもつながっていた。

○講義4「音楽のしくみを知ろう～うたのはじめはドレミ～」（北山敦康先生）



音楽には「楽譜」や「楽器」・・・と経験のない人にとっては難しいもの。けれどもそれを、ハンドサインでの歌、口や鼻の笛、テルミンなど、体を使ってできる表現方法を知ることができた。

はじめて会った社会人と学生の歌声が会場いっぱいに響き渡り、すばらしい時間を共有することができたのではないかと考えている。

学びのパートナーとして、いっしょに受講して 「学ばって楽しい！—大学で学ぼう—」に参加した大学生の報告・感想など

渡辺 明広

静岡大学公開セミナー「学ばって楽しい！—大学で学ぼう—」は、障害のある人もない人もいっしょに学ぶ、ユニバーサルな学びを目指している。静岡大学教育学部特別支援教育専攻等の学生が知的障害のある社会人といっしょに2つの講義を受講した。セミナー終了後、学生たちに学びのパートナーとして、「講義中のスモールワークの取り組み状況」についての報告や感想などを求めるアンケート調査を行った。

調査の概要

- ・調査対象：静岡大学教育学部特別支援教育専攻等の学生（第6回34名、第7回43名）
 ※第6回の34名は2年生が16名で、3年生が18名。第7回は43名のうち29名（67.4%）は1年生で、他は2～4年生
- ・調査内容：「講義中のスモールワークの取り組み状況」
- ・アンケート調査の実施期間： 第6回 2008（平成20）年 6月18日～6月25日
 第7回 2008（平成20）年 10月19日～10月27日
- ・回答方法：選択肢回答と自由記述を併用。無記名。調査用紙配布、記入後に各自が提出。
- ・回収数：第6回34（回収率100.0%）、第7回32（回収率74.4%）

調査の結果

Q1「あなたは、受講した人達が知的障害のある、なしにかかわらず、講義中のスモールワークに全体としては、一緒に取り組めたと思いますか」（「大変取り組めた」「かなり取り組めた」「ふつう」「あまり取り組めなかった」「ほとんど取り組めなかった」の5段階評定。他に「何とも言えない」もあり。評定をした理由を自由記述）（表1）

表1 Q1「あなたは、受講した人達が知的障害のある、なしにかかわらず、講義中のスモールワークに全体としては、一緒に取り組めたと思いますか」

段階 回	5 大変 取り組めた	4 かなり 取り組めた	3 ふつう	2 あまり 取り組めなかった	1 ほとんど 取り組めなかった	0 何とも 言えない
第6回	7名 (20.6%)	24名 (70.6%)	2名 (5.9%)	1名 (2.9%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)
第7回	6名 (18.8%)	14名 (43.8%)	8名 (25.0%)	3名 (9.4%)	0名 (0.0%)	1名 (3.1%)

- ・第6回は「5 大変取り組めた」と「4 かなり取り組めた」を合わせると91.2%である。圧倒的に多数の学生と一緒に取り組めたと評定した。これに対して第7回は「5 大変取り組めた」と「4 かなり取り組めた」を合わせて62.6%で、「3 ふつう」が4分の1（25.0%）、「2 あまり取り組めなかった」も1割近く（9.4%）あった。

<第6回> (自由記述 原文のまま)

「みんなわいわいやっていた」「障害をもった方が理解しにくい所は自分なりにフォローしようと努力できたし、相手が楽しそうに取り組んでいることから自分も楽しく活動できたから」(以上、評定5)、「どんなことでも必ず全員の意見を出して話し合ったのでみんなで一緒に取り組めたと思います」「分からないところを気軽に聞いてくれたから」「活動内容を全体に説明するので、それをわかりやすく伝えたり、わかったことを共有したりする時間があり、一緒に取り組めたと思う」「積極的にしていたし、疑問をもちながらやっていたから」「一緒にできない活動(支援が必要となる活動)が多かったの」(以上、評定4)、「協力がうまくいかず一部の意見がでて終わった」(以上、評定3) etc.

<第7回> (自由記述 原文のまま)

「1つ1つの会話を交えながら取り組めたから」(以上、評定4)、「みんなで楽しみながら一緒に、というより、各々が考えてやっていたように感じました。なるべく受講生の方と話しながら、と思っても席が遠くて声がかげづらかったり、グループワークなのかの区切りや講義中にどの程度話をしていいのかがわからなかったり、あまり上手に関わることができなかつたように感じます」「全体としてはできていたと思います。ただ少しだけ会話が隣同士だけになったり、向かいの人の会話が聞き取れないなどがありました」(以上、評定3)、「周りの班を見ていると、もっと席で楽しそうに会話をしていたが、慣れていない自分にはそれがなかなかできなかつた。大変申しわけなかつたと思っている」(以上、評定2) etc.

Q2「あなたは、受講していた知的障害のある人に、どんな場面で、どんな援助や配慮をしましたか。援助をした人はできるだけ具体的に書いてください。特になかつた人は『なし』と書いてください」(自由記述)

講義中の援助内容や方法、援助をした際に配慮したことと言及した回答について、第6回と第7回の2回分を以下に集めた(数値は延べ人数)。

- ・何らかの具体的な援助をした学生は60名であった。「なし」は6名であった。「なし」は第6回は1名であったが、第7回は5名であった。
- ・援助の内容や方法は、<教える・説明する(方向を示す)(アドバイスする)>(37名)、<一緒に作業をする(補助をする、手伝う)>(8名)、<問い掛ける・声掛けをする>(8名)、<例を挙げる・手本を見せる>(7名)、<(講師の説明を)繰り返す>(4名)、<促す>(4名)、<ヒントを出す>(3名)、<(作業を)やってあげる>(3名)、<途中までやってみる>(2名)であった。

<教える・説明する(方向を示す)(アドバイスする)>(以下、自由記述 原文のまま)

「アンケートを書く時に、書く紙や内容を教えた」「文字が書けなかつたから、点で書いてなぞりがきしてもらおうようにした」「科学のワークで、うまくできるように、こつを教えたり、わかりやすく、しくみを説明した」「プリントのどこを読めばいいのか分からない時、指でさしながら教えた」「パワーポイントの文字が小さくて見えにくかつたため、同じプリントの指しているものを教え、同じように考えた」「使っているプリントの説明をした」「困っていても『分からない』とはあまり言わないので、自分から教えたりした」「スライド一つ一つに補足説明をしたり、言いかえたりしました」 etc.

<一緒に作業をする(補助をする、手伝う)>

「実験のやり方がよく分からなかつたようなので、見本を示したり、実験から分かることを一緒に考えたりした」「書いてあることを理解するのがむずかしく、読みながら一緒にやった」「ペンを持ったまま固まってしまった受講者の方がいたので、話をしながら、一緒に作業を行いました」 etc.

<問い掛ける・声掛けをする>

「質問項目に回答する時に、答えを聞き出すために様々な質問をした」「コンビニの雑誌の配置では『よく外からみると立ち読みしている人見ませんか』と聞いた」「鉛筆がなかなか動かないようだったので『どうですか?』と声をかけて一緒に考えたりしました」 etc.

<例を挙げる・手本を見せる>

「文字が書けない人に大きく文字を書いて見せた」「棒をおして回す活動の時におし方がなかなか理解できないみたいだったので、一緒におしえ見本をみせるようにしました」「作業で難しい所はやってから、渡した」「問題にいきづまっていた時に、ちょっとした例を出してあげました」 etc.

<(講師の説明を) 繰り返す>

「先生の話をもう1度ゆっくり分かりやすく伝える」「実験の解説を先生がされていたのを伝えなおす」 etc.

<促す>

「話し合いの時に意見はあるかと話をふったり、意見をまとめたりするときに助言した」「手が止まった時に『分からないことはありますか』という質問をした」「今なにをするのか、時々教えてあげました」 etc.

<ヒントを出す>

「分からない問題についてはヒントなどをあたえて話をした」「ワークの時はヒントを出したりして(この服どうしたの?これは?)、答えやすいよう配慮をしました」 etc.

<(作業を) やってあげる>

「作業はほとんど代わりにやりました。文をよんで、簡単な説明をしたり、代わりに書いたりしました」 etc.

<途中までやってみる>

「手先が不器用で困っている人に、了承を得て、作業の途中までやる」 etc.

・援助をする際には<繰り返しゆっくり伝えた>、<(分かりやすく説明をするために) 簡単に言いかえた>、<なるべく会話をした>、<具体的に聞いた>、<手伝いすぎないようにした>、<待つ、見守る>といった配慮や具体的な援助の方法を取っていた。

「繰り返しゆっくり分かりやすく伝えた」「難しい文章を簡単に言いかえた」「ばく然と言われても分からない点が多かったのもう少し幅を縮めた質問にしたりした」「なるべく会話をしようとした」「話しかけるときはなるべく具体的に聞くようにしました」「できるだけ会話などしながら手伝いすぎないようにした」「自分がどう思うのかを書きてくださいと声をかけ、いくつかの質問をしながら、受講生の方がもつ感想をひき出していった」「自分で文字を書くことができない人にプリントを見せてあげ、写すという方法と一緒に授業に参加した」「ある程度見守った後に、どのレジュメを見ていいかわからない人に教えてあげた」「答えを教えるのではなく、答えを導くように教えていった」 etc.

・学生たちは学びのパートナーとして、ほとんど初対面の受講生と講義を聴き、スモールワークに取り組み、いっしょに新鮮な驚きや喜びを感じた。様子をうかがいながら、必要と思われる具体的な援助をとっさに試みた。それでも、その関わり方がよかったのか、不安や反省は残る・・・

「なるべく壁がなくなるように積極的に話しかけるようにした。同じ目線で『いっしょに学ぶ』『いっしょに楽しむ』ことを目標に関わろうとしましたが、講義中は会話をするタイミングが難しく、実行できていたかどうかは不安です」「『教えてあげる』『助けてあげる』・・・こういった上からの目線を取り

除く努力が必要だと感じました。同等の立場で『一緒に』楽しむことが1番大切なのではないかと個人的には思いました」

まとめ

「講義中のスモールワークと一緒に取り組めたと思いますか」の問いに、「大変取り組めた」「かなり取り組めた」と答えた学生はかなり多い。ユニバーサルな学びが実現する手応えが感じられる。一方で、第7回は「ふつう」や「あまり取り組めなかった」も多かったのは、学びのパートナーの学生に1年生が多かったせいであろうか。学びの支援には学習と体験が必要である。

「受講していた知的障害のある人に、どんな場面で、どんな援助や配慮をしましたか」の問いには、それぞれの学生が自分なりに考える配慮のもとに、様々な援助が行われていた。障害のある人たちの学びのスタイルや様子はいろいろであるので、具体的な援助も多様なものが必要なことが分かる。その具体的な援助に磨きをかけることが、ユニバーサルな学びの実現に求められる。

参加者の感想

大畑 智里

〔第1回〕受講生（卒業生・社会人）アンケートの感想より

講義①「不思議感動!科学する心とは!？」（熊野善介先生）

- コマの実験で色が変わるのがふしぎでした。
色が変わったり、シールの色の数が違ってびっくりしました。
コマ回しで黒だけなのに黄色が見えたのが不思議だった。
木の円柱はすごくたくさんまわってよかった。
回転する木の円柱の秘密の時、木の円柱にシールを貼って回転したのがおもしろかったです。
- 蛍光灯の不思議を知ることができて楽しかった。
虹が出た。光は不思議だなあと意いました。
メガネを使ってとてもたくさん色が見えました。
光がよく見えたことが、よかったと思います。
眼鏡とシートを使ってやるのはすごくよかったです。
- 色の見え方がわかった。いろいろな色が見えました。
今までにない色から他の色に変化してびっくりしました。
- 全部楽しかったです。おもしろかったです。とても勉強になりました。
また、科学を勉強したいです。またやってみたいです。

講義②「現代ファッション事情～流行は誰が考えるの?どうやって決まるの?～」（大橋芳幸先生）

- 糸で、服を作っているところが楽しいと思った。洋服はこういう風に作るのかと思いました。服の色やデザインが1年半前から考えられていたのに驚きました。
- 服選び楽しかったです。いろいろな服がありました。
夏服や帽子がいっぱいあったり、きれいにできあがったりとすごいです。
マネキンに服を着せて帽子をかぶせました。海をテーマにしました。わかりやすかったです。
- 流行には社会のニュースが重要だなあと感じました。流行の裏側が見えた。
流行を人々が決めることがよく分かりました。
- ファッション流行についてとてもわかりやすかったです。
いろいろなファッションがあるからいろいろ考えてやるのが大切です。
- とても楽しかった。たいへんいろんな話が聞けて楽しかったです。
とてもわかりやすくてくわしく楽しかった。
おもしろかった。また来たいと思います。
- これからファッションにこだわっていきたいと思います。
ファッションの勉強はとてもいい勉強になりました。
服を買う時に生地や綿に気をつけてみたいです。かっこよくなりたい。
私とお母さんがとくいことがあります。でも私もお母さんもおしゃれが一番大好きです。

[第2回] 受講生（卒業生・社会人）アンケートの感想より**講義①「消費生活を考えてみよう」（色川卓男先生）**

- コンビニのお話しがわかりやすかったです。場所もわかりました。
コンビニ内の弁当や雑誌が置いてある場所が分かった。
コンビニが色々買ってもらおうと作戦を考えていると言う事がよく分かりました。
- お金はもったいない。だまされないようにする。
劇の話が良かったです。
中には悪い人がいるので気をつけたい。
人間関係を悪用した。商法が多く行われている事がよく分かった。
人をだますような悪い人達を相手にしないように気をつけたいです。
デート商法他、色々なサギにかからないようにすること。
女性の人や高齢者の人たちにはよくひっかけやすいと聞いて手助けをしたいと思います。
- 人生ってたいへんだなあ〜と思った。聞いて良かったです。
消費生活は生きるためには大切だと思いました。
講義を聞いてとてもいいものをきかせてもらいました。
- 楽しかった。またやってください。お願いします。

講義②「音楽のしくみを知ろう〜うたのはじめはドレミから」（北山敦康先生）

- 僕はこの講義を聞いて、ドレミファソラシドの音がどんどん高くなる事が心に残りました。みんなとドレミの歌が歌えてよかった。
歌が良かったと思います。
歌の初めはドレミからという事。
- 口笛、楽しかった。
- 鼻笛ができて楽しかった。ふるさと聞けてうれしかった。
笛は笛でも鼻でふく笛があるとはおもわなかった。
鼻笛のならし方が難しかった。音がなかなか出なくてけっこう苦労しました。
- 演奏と鼻笛がうまいです。
- 他に、どのような音楽の楽しみ方がありますか！
- 内容がわかりやすかった。
講義を聞いてとてもいいお話しをききました。ありがとうございました。
- 音楽のいろんなしくみを知れてとても楽しかったです。
やったことがないものを楽しかった。
とてもおもしろかったです。また来年もお願いします。

(以上、原文のまま)

これまでの「学ぶって楽しい！—大学で学ぼう—」

五條 由美子

2005年度 第1回（通算：第1回）

	講義1	講義2								
講義名	「科学って面白い～シャボン玉って超面白い～」	「人間が創る楽しさをとりまく世界」								
講師	佐藤 早苗氏 シャボン玉遊び研究所主宰 元静岡県立吉原工業高等学校校長	東 俊光氏 静岡大学教育学部教授 元静岡大学教育学部附属養護学校校長								
講義概要	いろいろなシャボン玉作りを実演し、シャボン玉の秘密をおもしろクイズで解きながら、驚きと感動と共に、その不思議を“科学してみよう”。	スケッチ旅行に訪れる機会の多いイタリアの言語と生活習慣について紹介したり、自分たちの生活と比較させたりすることで、異文化に対する興味・関心を深める。								
参加者数	<table border="0"> <tr> <td>社会人（高校生を含む）</td> <td>41人</td> </tr> <tr> <td>大学生</td> <td>24人</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>24人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>89人</td> </tr> </table>	社会人（高校生を含む）	41人	大学生	24人	その他	24人	計	89人	
社会人（高校生を含む）	41人									
大学生	24人									
その他	24人									
計	89人									

2006年度 第1回（通算：第2回）

	講義1	講義2								
講義名	「駿府城をもっとよく知ろう」	「隣の国に行ってみよう～ごきげんな韓国济州島～」								
講師	小和田 哲男氏 静岡大学教育学部教授	並川 欣史氏 名鉄観光サービス株式会社 静岡支店 営業係長								
講義概要	城はなぜ造られたか、城の種類などを概説し、駿府城の歴史、築城した徳川家康について解説する。また、駿府城を“探検”するための見所やポイントを考える。	魅力的な韓国济州島への旅行を紹介しながら、パスポートの取り方など海外旅行をするために役立つ情報を提供する。								
参加者数	<table border="0"> <tr> <td>社会人（高校生を含む）</td> <td>49人</td> </tr> <tr> <td>大学生</td> <td>35人</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>35人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>119人</td> </tr> </table>	社会人（高校生を含む）	49人	大学生	35人	その他	35人	計	119人	
社会人（高校生を含む）	49人									
大学生	35人									
その他	35人									
計	119人									

2006年度 第2回（通算：第3回）

	講義1	講義2								
講義名	「宇宙人はいる?! 宇宙の不思議」	「やっぱりサッカーは最高!～2006W杯ドイツ大会を観戦して～」								
講師	寺尾 理氏 前静岡県総合教育センター教授	難波 邦雄氏 静岡大学教育学部教授								
講義概要	地球に人間がいるように、宇宙のどこかの星には、宇宙人や生き物がいるのかなど、宇宙の不思議を分かりやすく、面白く講義する。	4年に一度開催されるサッカーW杯。今年行われたドイツ大会の観戦記やドイツの生活ぶりについて紹介する。また、氏がサッカーを通して学んだことや人との出会いについても触れる。								
参加者数	<table border="0"> <tr> <td>社会人（高校生を含む）</td> <td>46人</td> </tr> <tr> <td>大学生</td> <td>25人</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>31人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>102人</td> </tr> </table>	社会人（高校生を含む）	46人	大学生	25人	その他	31人	計	102人	
社会人（高校生を含む）	46人									
大学生	25人									
その他	31人									
計	102人									

2007年度 第1回（通算：第4回）

	講義1	講義2								
講義名	「アイスブレイクからはじめよう!～心理の世界へようこそ～」	「地震はなぜ起こる?」								
講師	大畑 智里氏 静岡大学教育学部附属特別支援学校教諭	小山 真人氏 静岡大学教育学部教授								
講義概要	アイスブレイクを通して、初対面の人との緊張をときほぐす。無人島SOSゲームを体験しながら、周りの人とのコミュニケーションのこつを探る。	地震や津波が起こる仕組みを、ビデオやスライドを使って分かりやすく説明する。いつ起きてもおかしくないと言われる東海地震について、震度や津波の規模を予想する。								
参加者数	<table border="0"> <tr> <td>社会人（高校生を含む）</td> <td>46人</td> </tr> <tr> <td>大学生</td> <td>32人</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>30人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>108人</td> </tr> </table>	社会人（高校生を含む）	46人	大学生	32人	その他	30人	計	108人	
社会人（高校生を含む）	46人									
大学生	32人									
その他	30人									
計	108人									

2007年度 第2回（通算：第5回）

	講義1	講義2								
講義名	「コンビニの秘密」	「モーターってなんだ？～ペットボトルモーターをつくろう！～」								
講師	伏見 一茂氏 セブン・イレブン・ジャパン 東海ゾーン ゾーンマネージャー	増田 好治氏 静岡大学名誉教授 NPO 法人技術教育教材開発研究会 今田 真一氏 静岡大学教育学部附属特別支援学校教諭								
講義概要	おでんが一番売れるのはいつ？一日の時間帯ごとに売り場が変わるって本当？など、クイズ形式で、身近にありながら知らなかったコンビニエンスストアの秘密に迫る。	フレミングの左手の法則やモーターの原理を説明した後、磁石と電池を使ったペットボトルモーターを作成する。はんだごてにも全員が挑戦して、モーターを完成させる。								
参加者数	<table border="0"> <tr> <td>社会人（高校生を含む）</td> <td>44人</td> </tr> <tr> <td>大学生</td> <td>30人</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>35人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>109人</td> </tr> </table>	社会人（高校生を含む）	44人	大学生	30人	その他	35人	計	109人	
社会人（高校生を含む）	44人									
大学生	30人									
その他	35人									
計	109人									

2008年度 第1回（通算：第6回）

	講義1	講義2								
講義名	「不思議感動！科学する心とは！？」	「現代ファッション事情～流行は誰が考えるの？どうやって決まるの？～」								
講師	熊野 善介氏 静岡大学教育学部教授	大橋 芳幸氏 株式会社コックス ブランド開発部長								
講義概要	回転する円柱やベンハムのコマなどの実験を通して、円柱に貼ったシールの数やコマの色の変化に気づく。なぜだろう、不思議だな、という体験をする。	流行はどのようにしてつくられるのか、商品が店に並ぶまでの過程をスライドで紹介する。実際の衣服をマネキンに着せて、テーマに合ったコーディネートを考える。								
参加者数	<table border="0"> <tr> <td>社会人（高校生を含む）</td> <td>51人</td> </tr> <tr> <td>大学生</td> <td>34人</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>38人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>123人</td> </tr> </table>	社会人（高校生を含む）	51人	大学生	34人	その他	38人	計	123人	
社会人（高校生を含む）	51人									
大学生	34人									
その他	38人									
計	123人									

2008年度 第2回（通算：第7回）

	講義1	講義2								
講義名	「消費生活を考えてみよう」	「音楽のしくみを知ろう～うたのはじめはドレミ～」								
講師	色川 卓男氏 静岡大学准教授	北山 敦康氏 静岡大学教育学部教授								
講義概要	商品配置や値段の付け方など、店の買わせよう作戦を知り、消費者としてどんな買い方をしたらよいかを考える。デート商法を実演し、被害にあわないための対処法を紹介する。	ドレミの歌の歌唱、ハンドサインに合わせた二部合唱、ノーズフルートの演奏などで、全員が心をつ一つにして、音楽の楽しさを実感。テルミンという不思議な電子楽器の音色も体験する。								
参加者数	<table> <tr> <td>社会人（高校生を含む）</td> <td>47人</td> </tr> <tr> <td>大学生</td> <td>43人</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>43人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>133人</td> </tr> </table>	社会人（高校生を含む）	47人	大学生	43人	その他	43人	計	133人	
社会人（高校生を含む）	47人									
大学生	43人									
その他	43人									
計	133人									

スタッフ名簿

(あいうえお順)

学ぶって楽しい!—大学で学ぼう—実行委員会

(静岡県知的障害者就労研究会)

伊賀 匡 伊藤 清美 池上 登 五條由美子 柴田カヨ子
瀬戸脇正勝 高木 亮 徳増 五郎 山下 光司 山下 基路
渡辺 明広

静岡大学教育学部附属特別支援学校

大畑 智里 柴田 美鈴

静岡県立静岡北特別支援学校

黒木 正憲 佐野亜有美 鈴木美枝子 内藤 早苗

静岡県立静岡北特別支援学校清水分校

田中 宏和

静岡県立静岡農業高等学校

篠田 聖児

静岡大学生涯学習教育研究センター

阿部 耕也 金子 淳 菅野 文彦 平野 伸子 山本 義彦

静岡大学教育学部学校教育教員養成課程特別支援教育専攻学生

日本大学国際関係学部専攻学生

このほかにもお手伝いいただいた方がいらっしゃったかもしれません。お名前が入っていない方がいらっしゃったら、申しわけありません。

多くの方のご協力をいただき、ありがとうございました。

編集後記

第6回と第7回の「学んで楽しい！ー大学で学ぼうー」について、講義の内容、受講者の感想や意見などを中心にまとめができました。

講師の先生方と私たちスタッフは、講義（授業）の計画や準備にあたっての打ち合わせを何回かするのですが、講義後に記録を残し、まとめをすることも、学びの内容や支援のあり方などを確認（検証）する上で効果的なことと思います。まとめられたものを読み返しますと、講義（授業）や学びの支援に重要なポイントを読み取ることもできて、これからの「学んで楽しい！ー大学で学ぼうー」に示唆されることが多いのです。

また、学びのパートナーである、学生のみなさんが事後のアンケートの中で記述している、授業中の社会人との具体的なかかわりや自由なアイディアの提案も、これからの計画を考えていく上で、きわめて参考になります。

さらに、今回は講義にあたって、受講する社会人のみなさんが所属する、青年学級のご協力をいただいて、その講義に関連する、社会人のみなさんの状況などの調査をさせていただきました。授業の目的や講義の進め方を考えるための具体的なヒントが得られました。

このように、みなさん方のコラボレーションで講義（授業）を創造し、検証することができました。「学んで楽しい！」にかかわる、たくさんのみなさんに大変お世話になりました。ありがとうございました。

（渡辺）

2008 静岡大学公開セミナー報告集（通巻第5号）

学ぶって楽しい！－大学で学ぼう－
学びの内容とその支援

発行日——2009年3月31日

編集——静岡県知的障害者就労研究会
（連絡先）静岡大学教育学部 渡辺明広研究室
☎ 054-238-4246

発行——静岡大学生涯学習教育研究センター
〒 422-8529 静岡市駿河区大谷 836
☎ 054-238-4817